Continuous Growth with Sustainable Superior Profits

窪田　顕文

アンリツ株式会社
取締役
常務執行役員
CFO

2018年11月

東証第1部：6754
https://www.anritsu.com

envision : ensure

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

目次

Ⅰ．中期経営計画 GLP2020 と事業戦略

1. GLP2020の基本方針
2. 事業概要
3. 中長期の事業戦略の基本方針

Ⅱ．T&M 事業

1. T&M:GLP2020: 売上高・営業利益計画
2. T&M:計測市場トレンドと事業機会
3. 5G/IoTに向けてアンリツのビジネスエリアは拡大
4. 5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション
5. Cellular Test Solutions
6. 産業別テストソリューション
7. Network Reshaping Test

Ⅲ．PQA 事業

Ⅳ-1. 財務戦略

Ⅳ-2. コーポレートガバナンス

Ⅳ-3. 配当方針

Ⅳ-4.社会的使命を果たすために

Ⅴ. 2019年3月期第2四半期　連結決算概要

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ．中期経営計画 GLP2020と事業戦略

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ-１．GLP2020の基本方針

- ☑ 『利益ある持続的成長』路線を徹底する
- ☑ 2020VISIONの実現に全力で取り組む

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ-2. 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

- モバイル市場 ： 5 G, LTE
- ネットワーク・インフラ市場 ： 有線・無線NW
- エレクトロニクス市場 ： 電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心

- X線検査機
- 金属検出機
- 重量選別機

その他

- IPネットワーク機器
- 光デバイス

（セグメント別売上比率）　2018年3月期 実績（連結）： 860億円

T&M 63%			PQA	その他
モバイル	ネットワーク・インフラ	エレクトロニクス		
45%	32%	23%	26%	11%

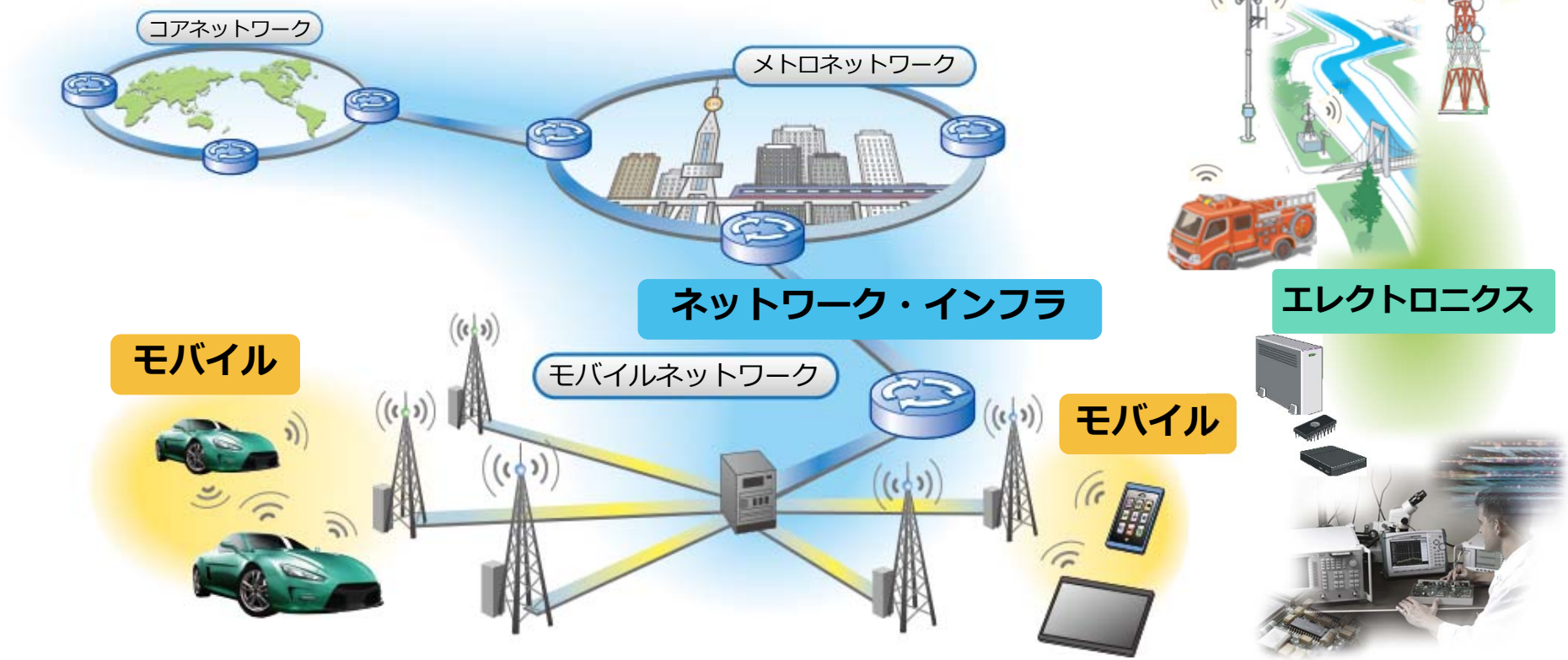
（T&M事業 地域別売上比率）

日本	アジア、パシフィック	米州	EMEA
20%	38%	23%	19%

T&M: Test & Measurement　PQA : Products Quality Assurance

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ-2-1. T＆M事業のビジネス領域



	研究開発	製造	建設/保守
有線通信分野	ネットワーク・インフラ(32%)		
無線通信分野	モバイル (45%)		
汎用分野	エレクトロニクス (23%)*		

*電子部品等

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Blank Slide

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ-3. 中長期の事業戦略の基本方針

成長ドライバーを確実にキャッチして、
“利益ある持続的成長” を実現する

	市場 年平均 成長率 （当社推定）	ビジョン／成長ドライバー	中長期ガイドライン	
			売上 成長率	営業 利益率
T&M	3-5%	**5G/IoT社会を支えるリーディングカンパニーになる** (1) 5G, LTE-Advanced (2) IoT/Automotive, Connectivity (3) IP Data traffic/Cloud Services	≧7%	≧20%
PQA	3-5%	**ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナーになる** 異物検出から品質保証市場に拡大	≧7%	≧12%
連結	–	–	–	≧18%
ROE	–	–	≧15%	

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ-3-1. GLP2020：売上高･営業利益計画（1/2）

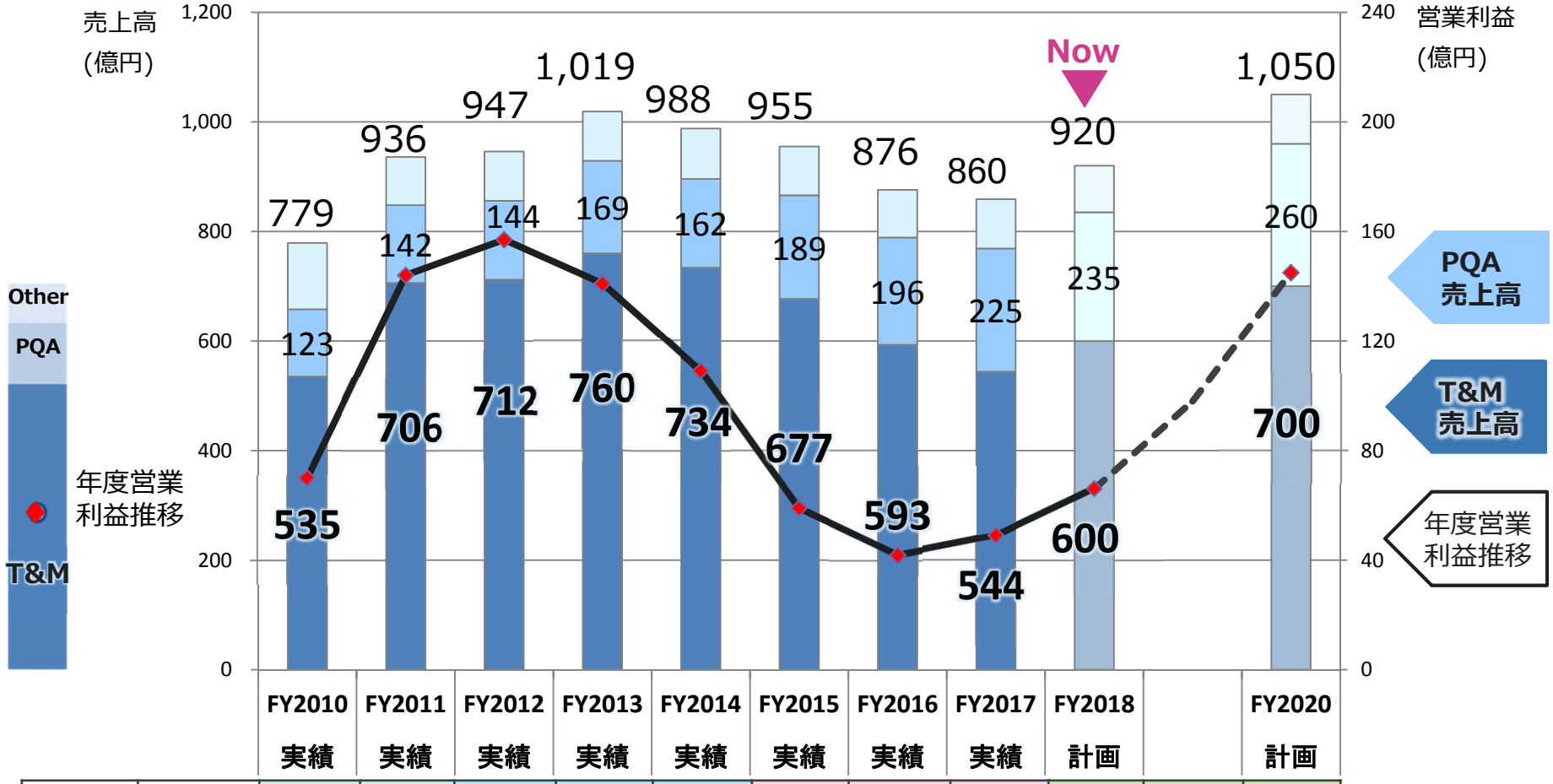
GLP2020

指標		FY2017	FY2018(※) 4月発表	FY2018(※) 10月修正	FY2020
売上高		860 億円	920 億円	920 億円	1,050 億円
営業利益		49 億円	66 億円	70 億円	145 億円
営業利益率		6 %	7 %	8 %	14 %
当期利益		29 億円	50 億円	55 億円	110 億円
ROE		3.7%	7%	7%	12%
T&M事業	売上高	544億円	600 億円	600 億円	700 億円
	営業利益	18億円	35 億円	50 億円	100 億円
	営業利益率	3 %	6 %	8 %	14 %
PQA事業	売上高	225 億円	235 億円	235 億円	260 億円
	営業利益	20 億円	20 億円	20 億円	30 億円
	営業利益率	9 %	9 %	9 %	12 %

(※)FY2018の業績予想： GLP2020について記載している他のページでは、2018年10月発表の修正内容は反映しておりません。
（参考）GLP2020想定為替レート： 1米ドル=105円、1ユーロ=125円

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ-3-2. GLP2020：売上高･営業利益計画（2/2）



		FY2010 実績	FY2011 実績	FY2012 実績	FY2013 実績	FY2014 実績	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 計画		FY2020 計画
営業利益率	連結	9%	15%	17%	14%	11%	6%	5%	6%	7%	–	14%
	T&M	9%	20%	21%	17%	12%	7%	4%	3%	6%	–	14%
	PQA	5%	4%	6%	7%	5%	6%	7%	9%	9%	–	12%
GLP計画		GLP2012		GLP2014			GLP2017			GLP2020		

GLP20XX:
中計の名称

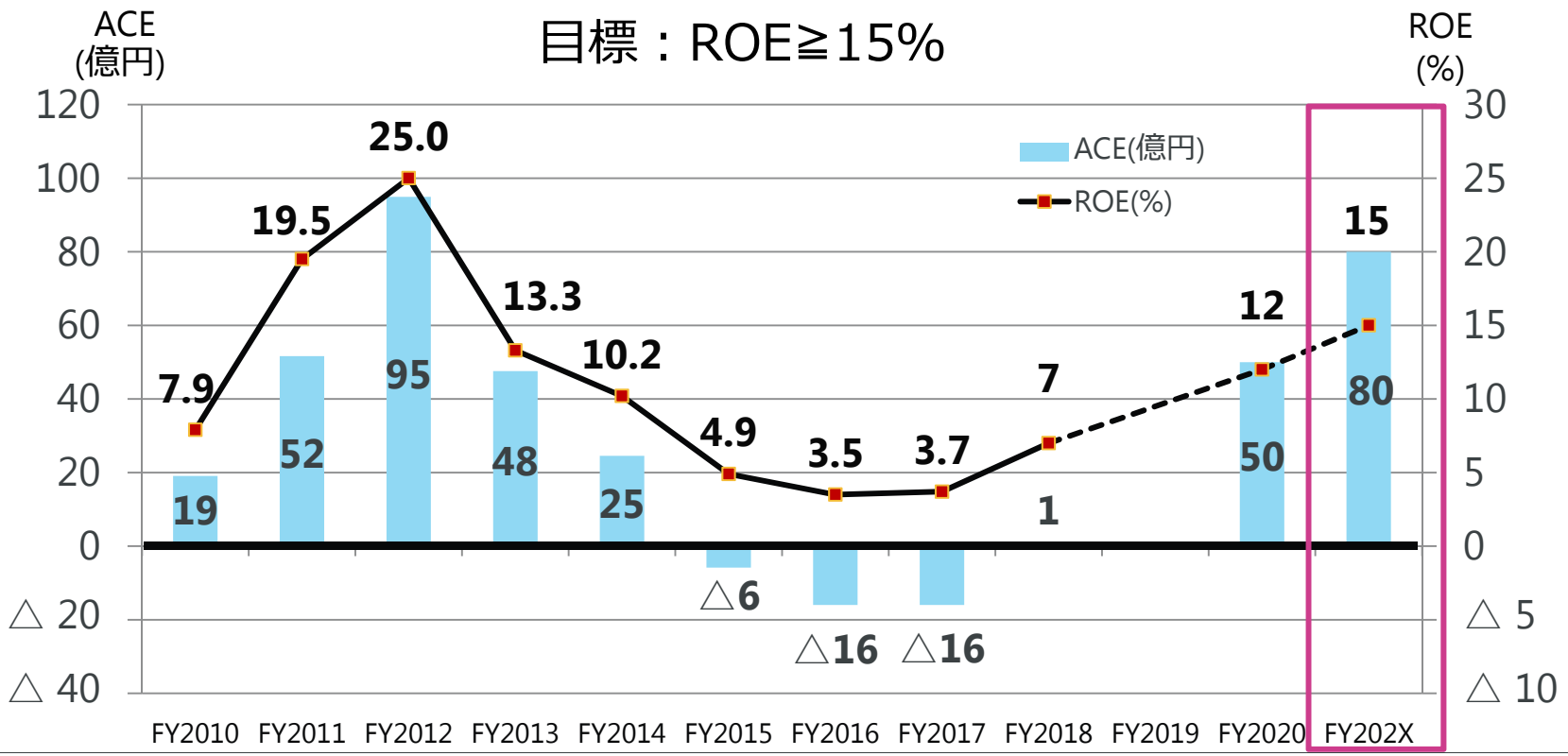
Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅰ-3-3. GLP2020：財務戦略

基本方針

株主資本コスト７%を上回るリターンを生み出す成長投資（含むM&A）と資本効率の改善で、企業価値KPI(ACE & ROE)を向上する

＊ACE（Anritsu Capital-cost Evaluation）:税引後営業利益-資本コスト(WACC ,5%)



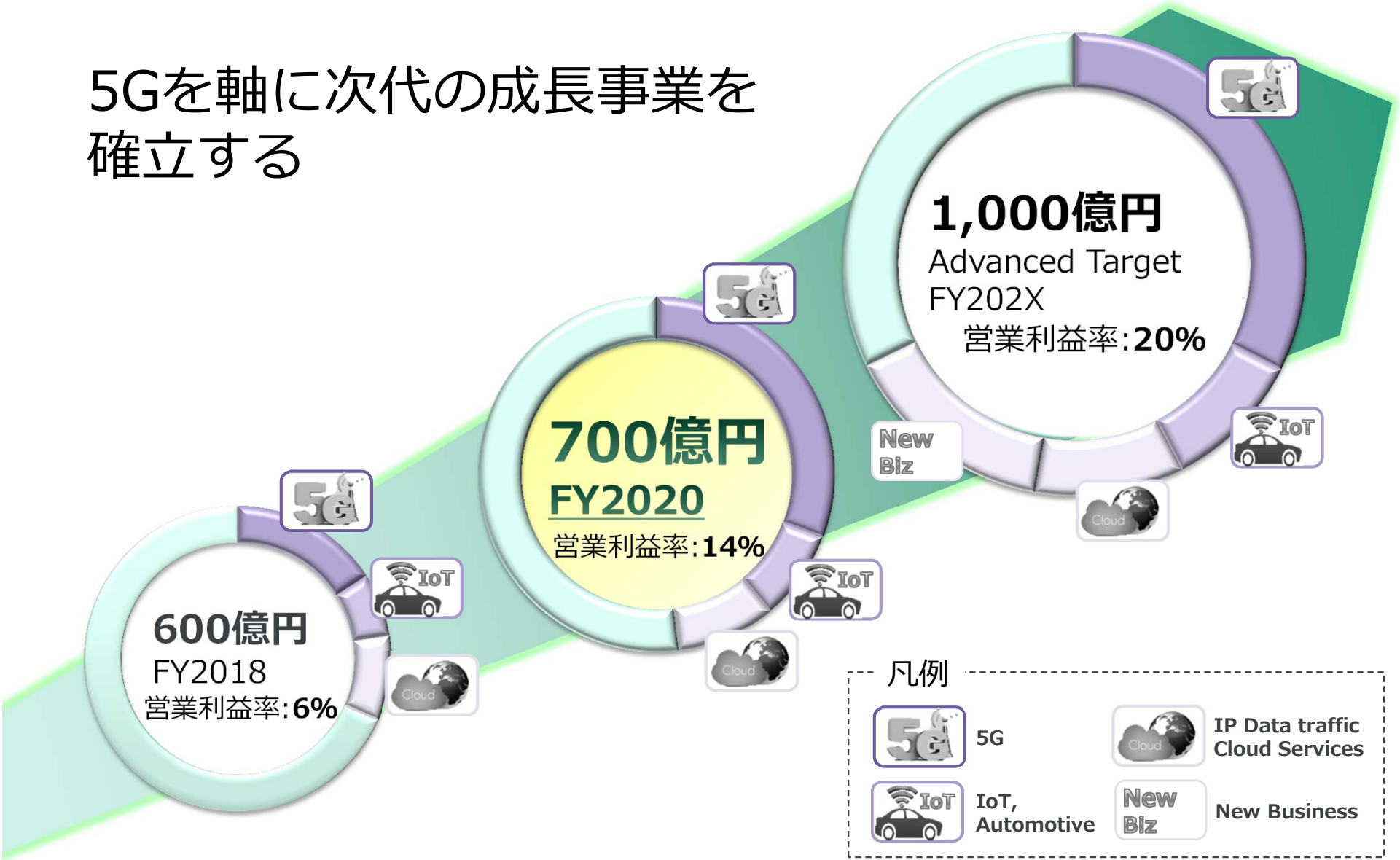
Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ. T&M事業

Copyright© ANRITSU CORPORATION

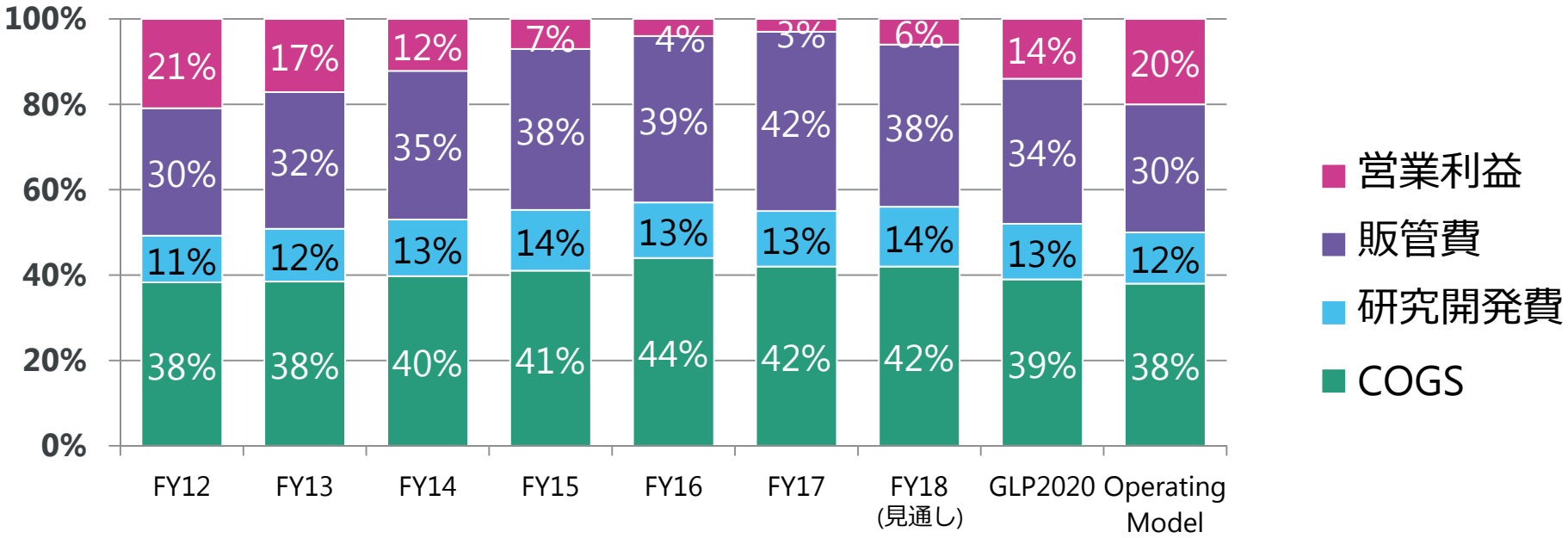
Ⅱ-1. T&M：GLP2020売上高・営業利益計画

5Gを軸に次代の成長事業を
確立する



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-1-1. T&M：利益体質改善目標



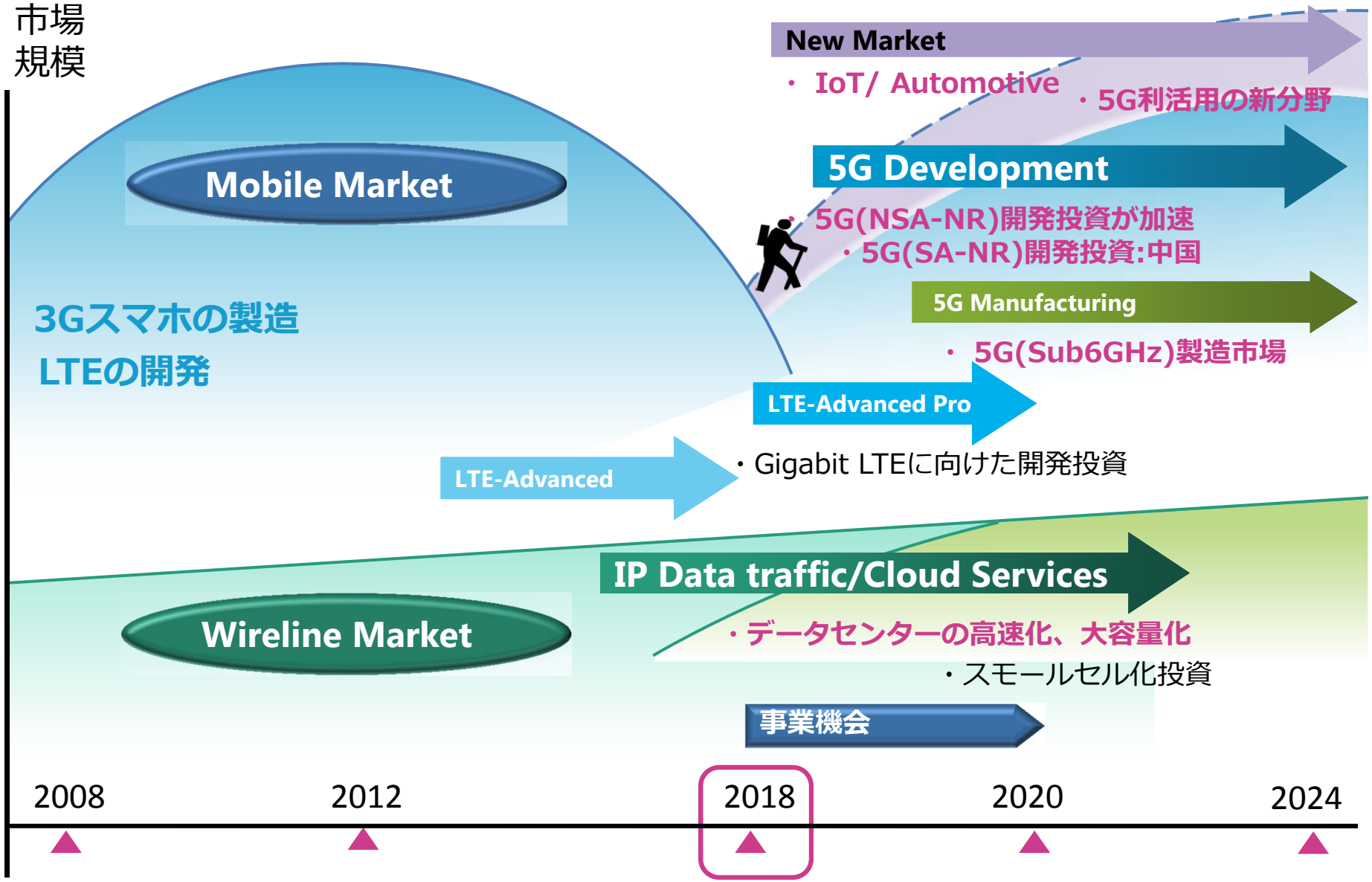
コスト構造の改善施策

- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウエア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 販管費 ： 顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1　KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額）≧ 4.0

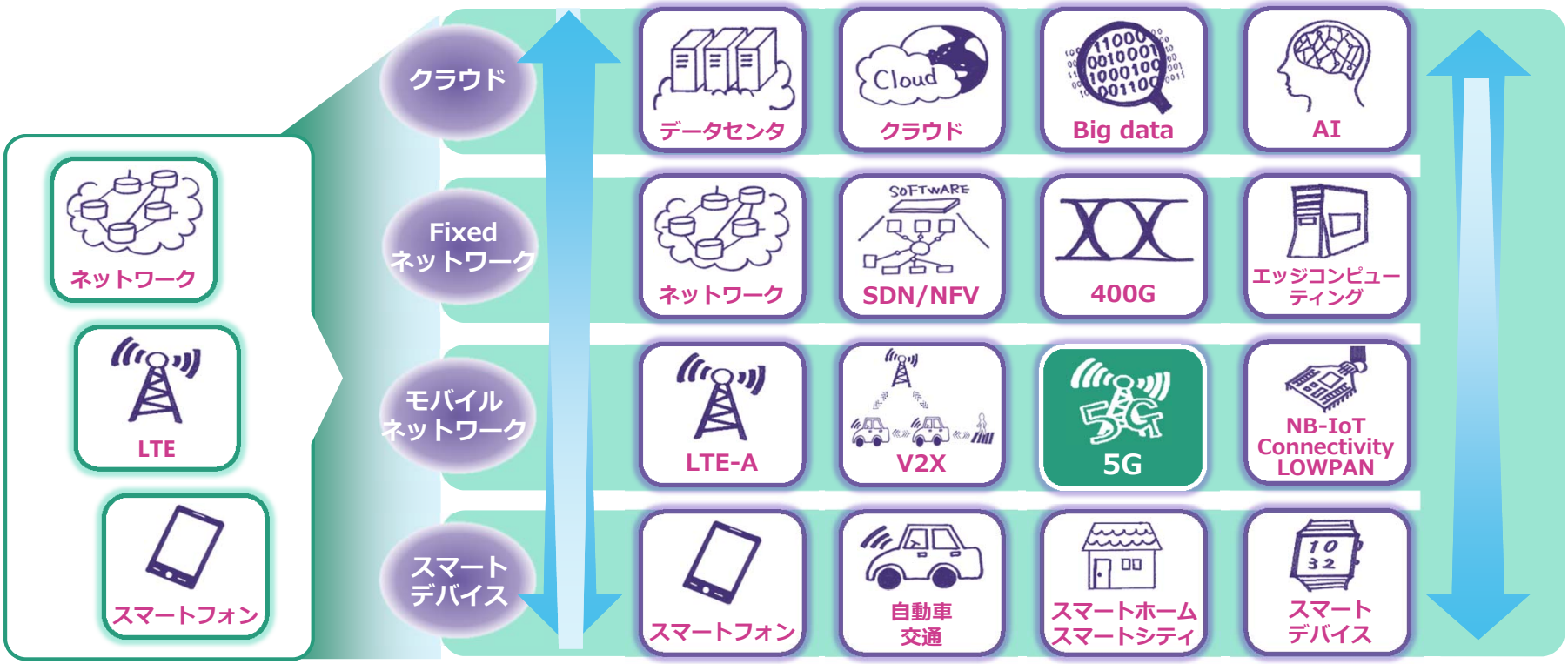
Copyright© ANRITSU CORPORATION

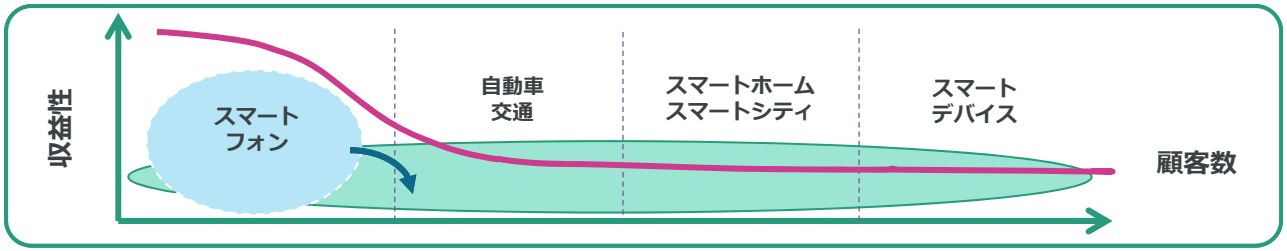
Ⅱ-2. T&M：計測市場トレンドと事業機会



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-3. 5G/IoTに向けてアンリツのビジネスエリアは拡大



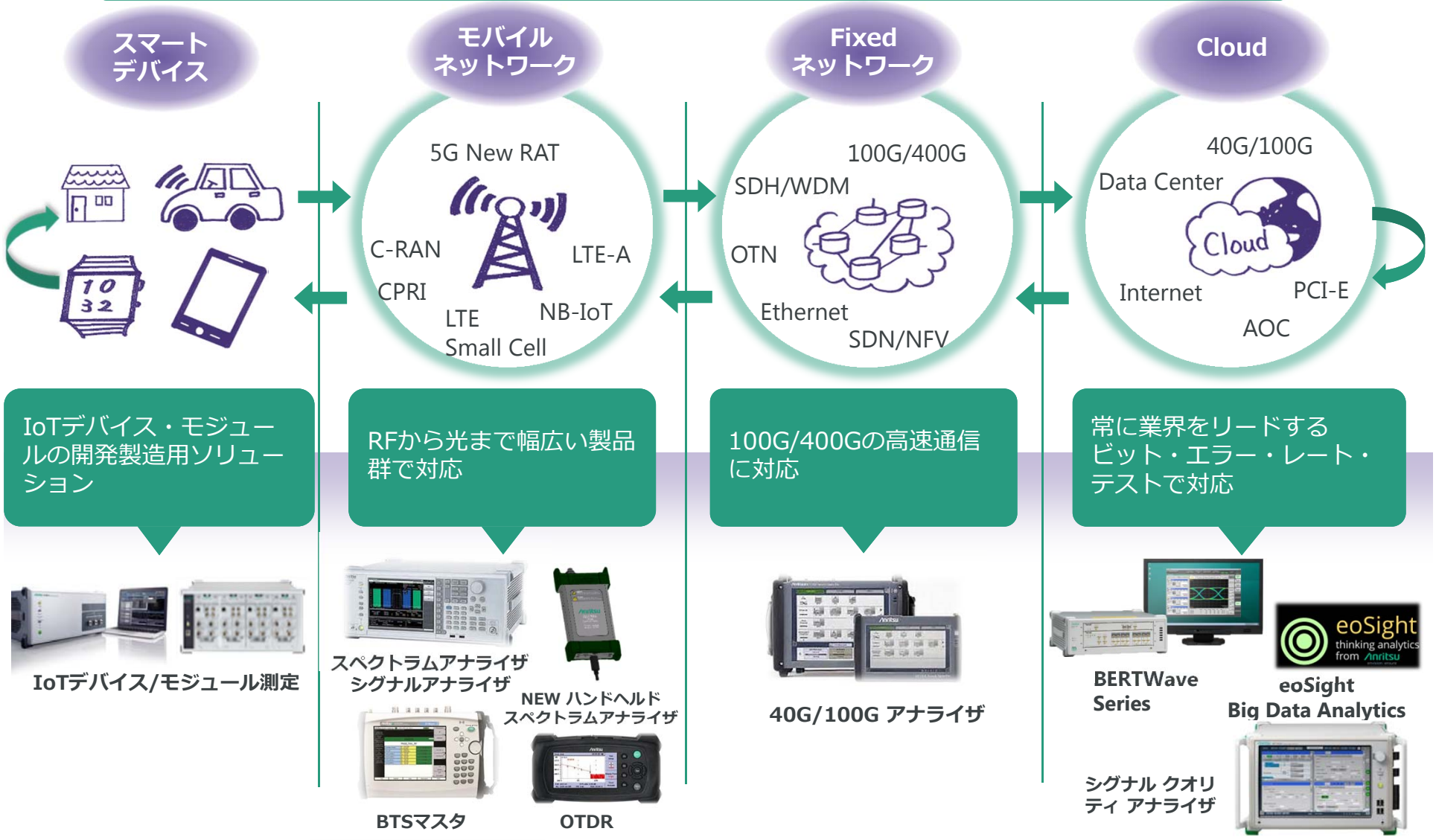


Source: NIKKEI COMMUNICATIONS April issue 2015
(From materials of the Ministry of Internal Affairs and Communications)

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-4. 5Gネットワークを支えるアンリツのソリューション

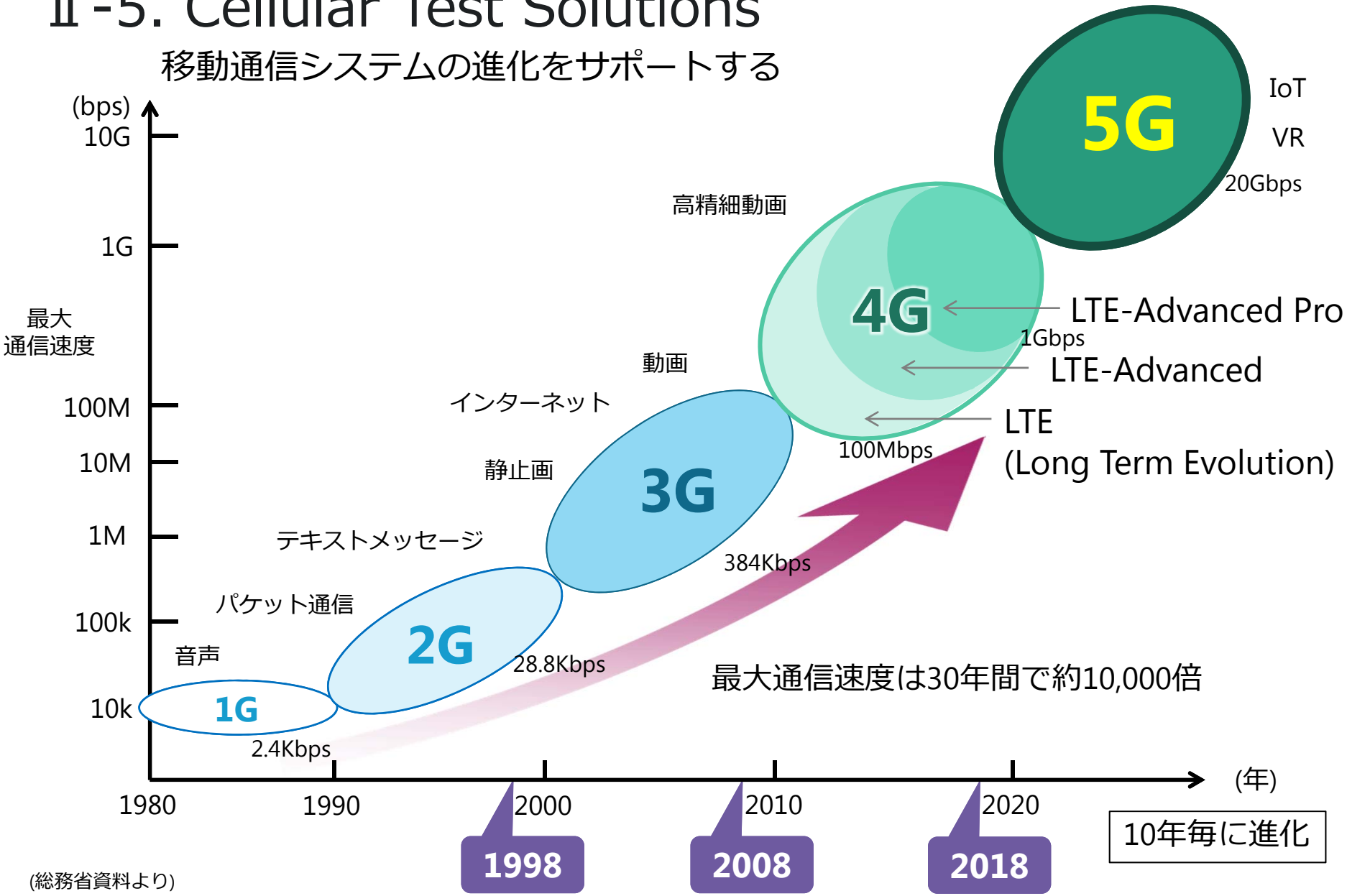
5Gの特徴 ： 1/10×Latency　100×Peak Data Rate　100×Capacity



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5. Cellular Test Solutions

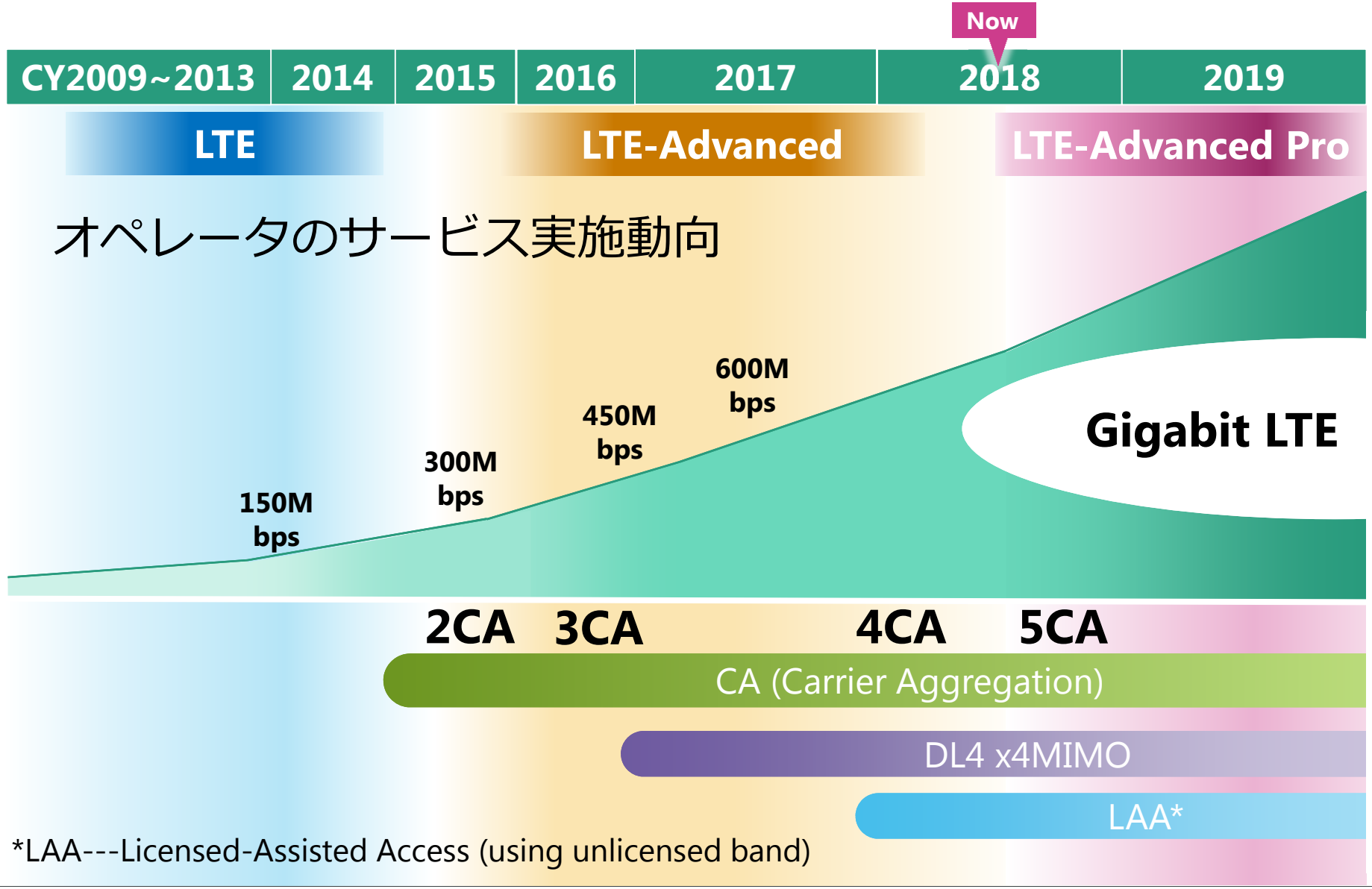
移動通信システムの進化をサポートする



(総務省資料より)

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-1. LTEサービスのロードマップ

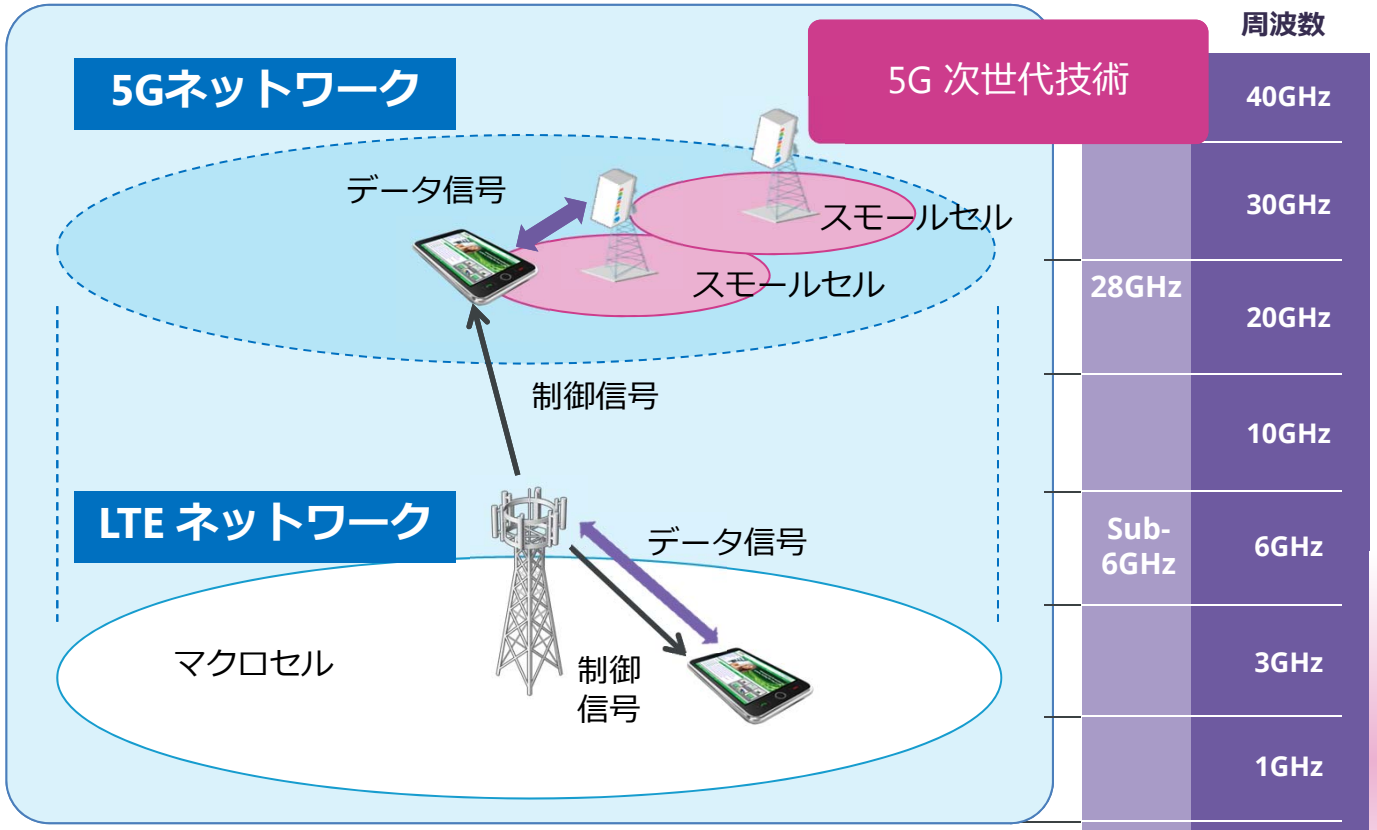


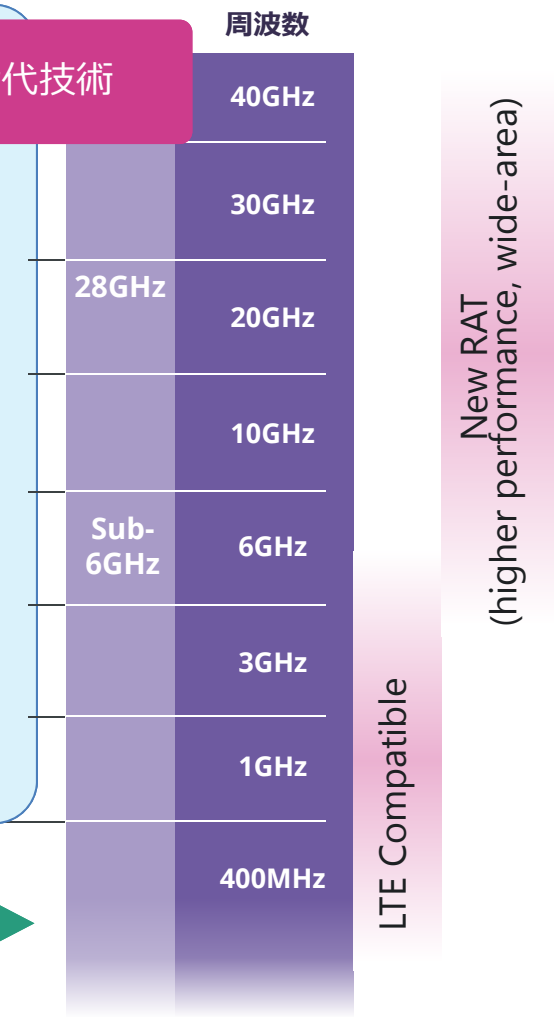
*LAA---Licensed-Assisted Access (using unlicensed band)

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-2. 5GとLTEは共存し連係して動作する

5G = LTEの技術進化 + 次世代無線技術





LTE ロードマップ

2015 → 2016 ～2020 Year

LTE-Advanced Rel 12 & 13	LTE Enhancement Rel 14 & 15

New RAT：New Radio Access Technology
新しい無線アクセス技術

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-3.　5Gサービスのロードマップ

CY2017	2018	2019	2020

★ 3GPP Rel.15 NSA仕様

★ Rel.15 SA仕様

★ Rel.16 (超低遅延、超多数接続等のユースケース拡張)

商用チップ開発

パイロット端末開発

商用端末開発

各国主要事業者の5Gサービス開始

NSA ＋ ミリ波（C）

NSA ＋ Sub6＆ミリ波（C）

SA ＋ Sub6 (P)

SA ＋ Sub6 (C)

NSA ＋ Sub6&ミリ波(P)

NSA ＋ Sub6&ミリ波(C)

[凡例]
P. トライアル、プレサービス、プレ商用化
C. 商用化

5Gテストソリューション

量産用ソリューション

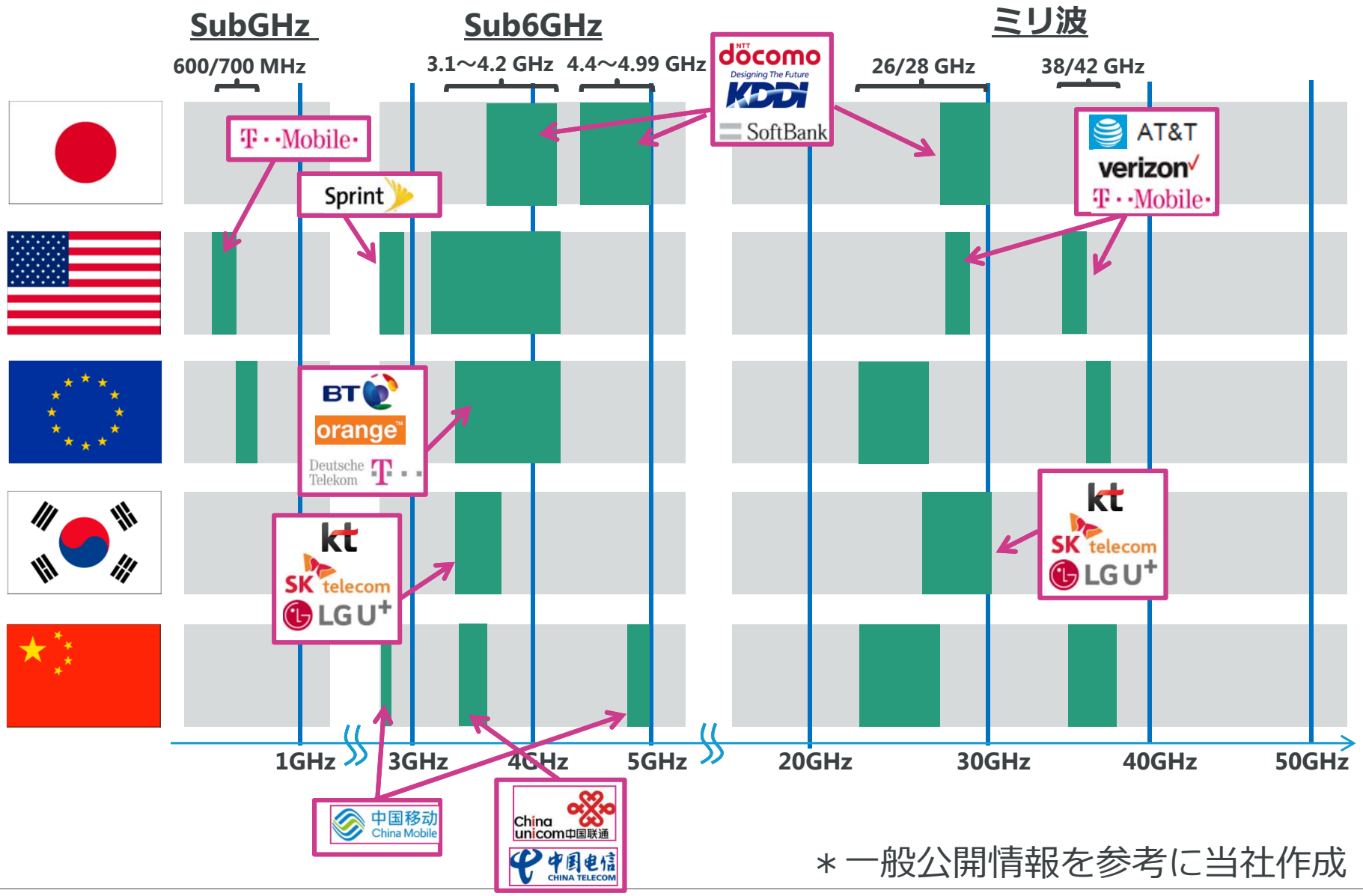
規格適合試験

コア開発用ソリューション

＊出所：一般公開情報を参考に当社作成

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-4.　各国の5G向け周波数



＊一般公開情報を参考に当社作成

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-5. 5G主要ベンダーおよびオペレータの現状と見通し

2018	2019	2020	2021

★3GPP Release 15　　★3GPP Release 16

チップセット

クアルコム（米）メディアテック（台）
サムスン（韓）　インテル（米）

次期チップセット

端末

サムスン（韓）　LG （韓）
モトローラ（米)ファーウェイ（中）

次期端末

オペレータ

ベライゾン（米）　KT,SKT（韓国）
AT&T（米）　CMCC （中）
ドコモ（日）

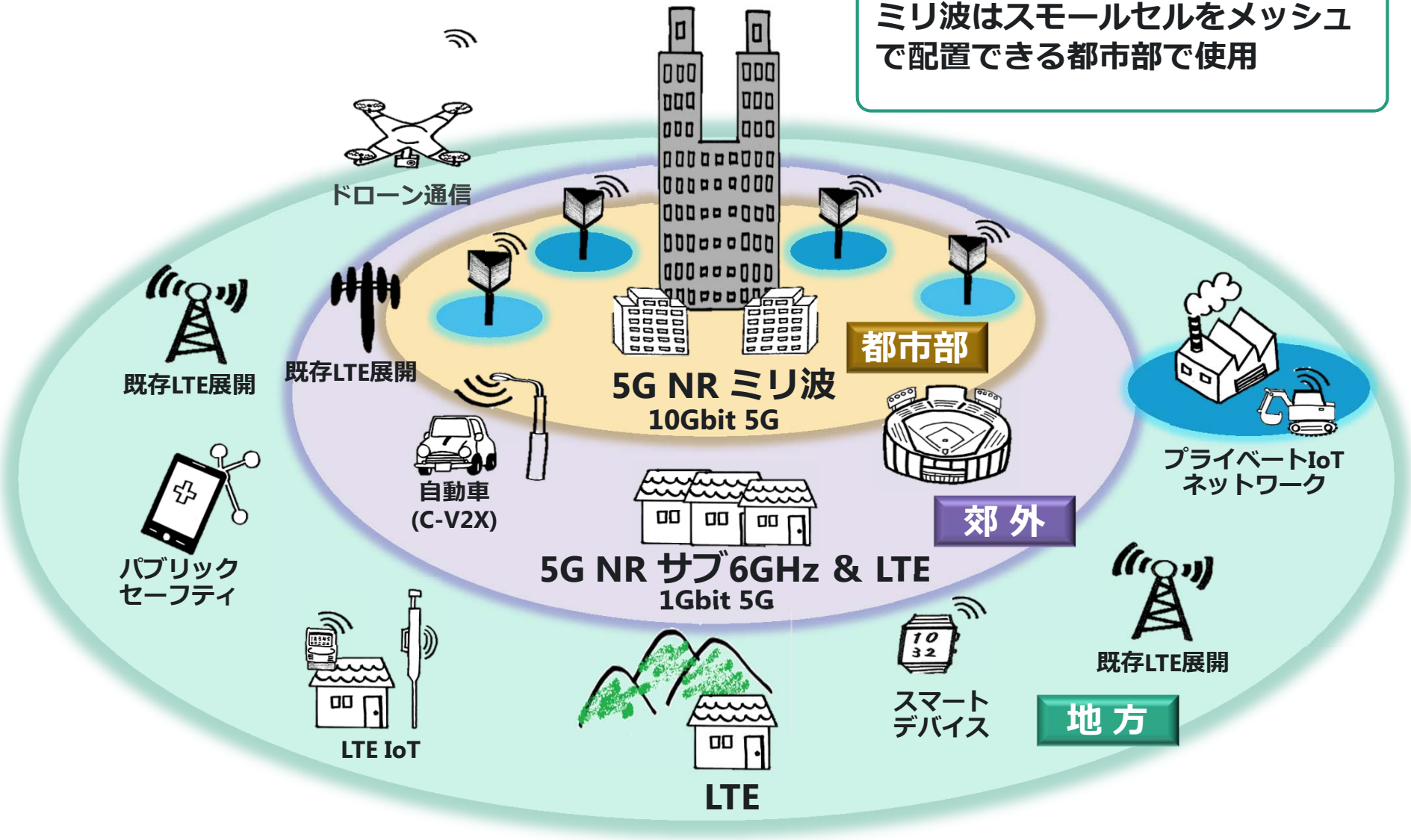
本格的な商用サービスは
２０２０年以降と予測

＊出所：総務省発行「電波政策に関する意見交換会（第58回）資料（2018.9.21）」他
一般公開情報を参考に当社作成

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-6. 5G サービスの展開予想

ミリ波はスモールセルをメッシュで配置できる都市部で使用



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Blank Slide

Copyright© ANRITSU CORPORATION

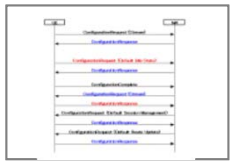
Ⅱ-5-7. モバイルテストソリューションと事業機会 <LTE>

	プラットフォーム（コア）開発	規格適合試験		オペレータ受入試験	スマートフォン商用開発
		RF	プロトコル		
用途	通信規格開発 チップセット開発	規格適合性試験 相互接続試験		通信キャリア認証試験	アプリ開発 端末動作検証
主な顧客	チップセットベンダー、端末ベンダー	チップセットベンダー、端末ベンダー、通信キャリア		通信キャリア テストハウス	端末ベンダー アプリ開発事業者
主要テーマ	・FDD / TDD-LTE, LTE-Advanced, LTE-Advanced PRO ・CA (Carrier aggregation),　VoLTE (Voice over LTE) ・MIMO (Multi Input Multi Output) ・3G/LTE and SRW (Short Range Wireless)のチップセット一体化				・データスループット向上 ・消費電力 など
テストソリューション					
競合状況	アンリツ：No.1ポジション R&S ローデ & シュワルツ		R&S ローデ & シュワルツ キーサイト(アナイト) スパイレント		R&S キーサイト

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-8. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション

チップセットメーカの技術検証



プロトコル

ベースバンドチップセット / RF回路

端末メーカの結合・性能評価

機能・性能評価

規格適合性試験

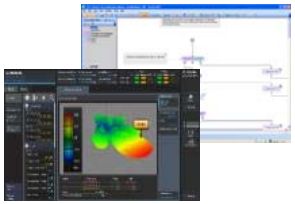
Conformance Test (CT)

事業者受入試験

Carrier Acceptance Test (CAT)

量産試験

RF校正・検査



MT8000A
ラジオコミュニケーション
テストステーション

ME7834NR
5GNRモバイルデバイステスト
プラットフォーム

MT8870A
ユニバーサルワイヤレス
テストセット

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-9.　5Gチップセット・端末開発用ソリューション

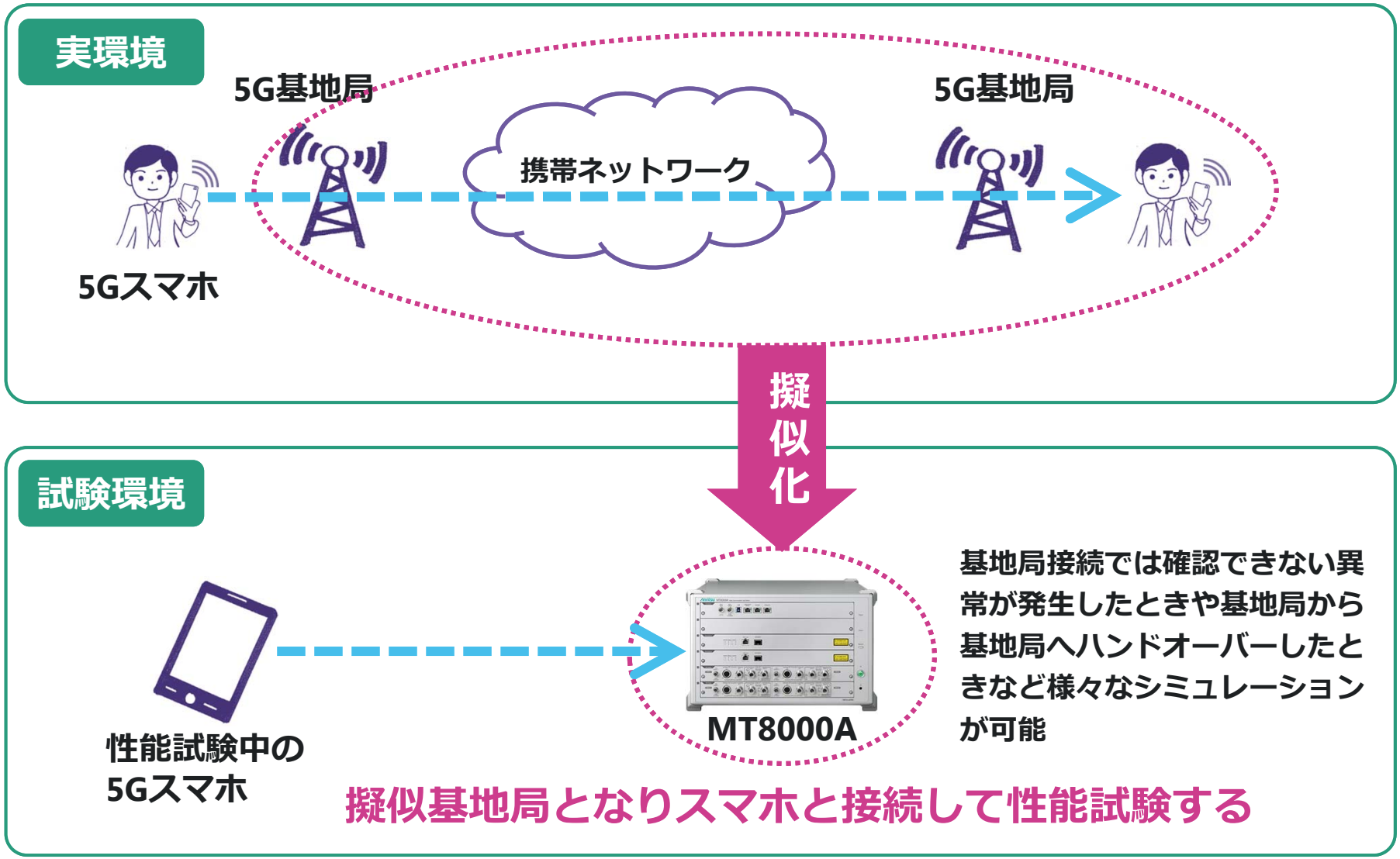
5G市場向けチップセットや端末などの開発用テスタである
ラジオコミュニケーションテストステーション MT8000A
の出荷を開始

チャンバー（電波暗箱）

MT8000A

Copyright© ANRITSU CORPORATION

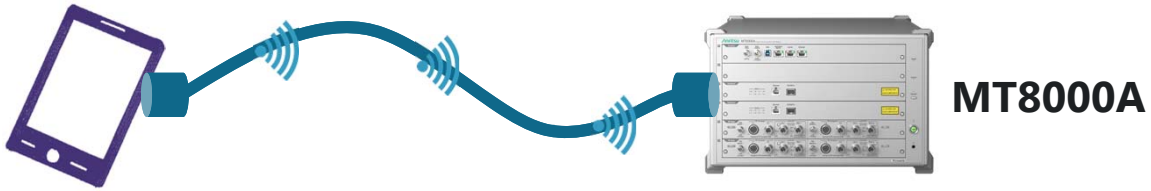
Ⅱ-5-10.　MT8000Aの役割



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-11.　高い周波数（ミリ波）の測定技術

低い周波数の場合



ケーブル接続することによって
正確に測定ができる

高い周波数（ミリ波）の場合

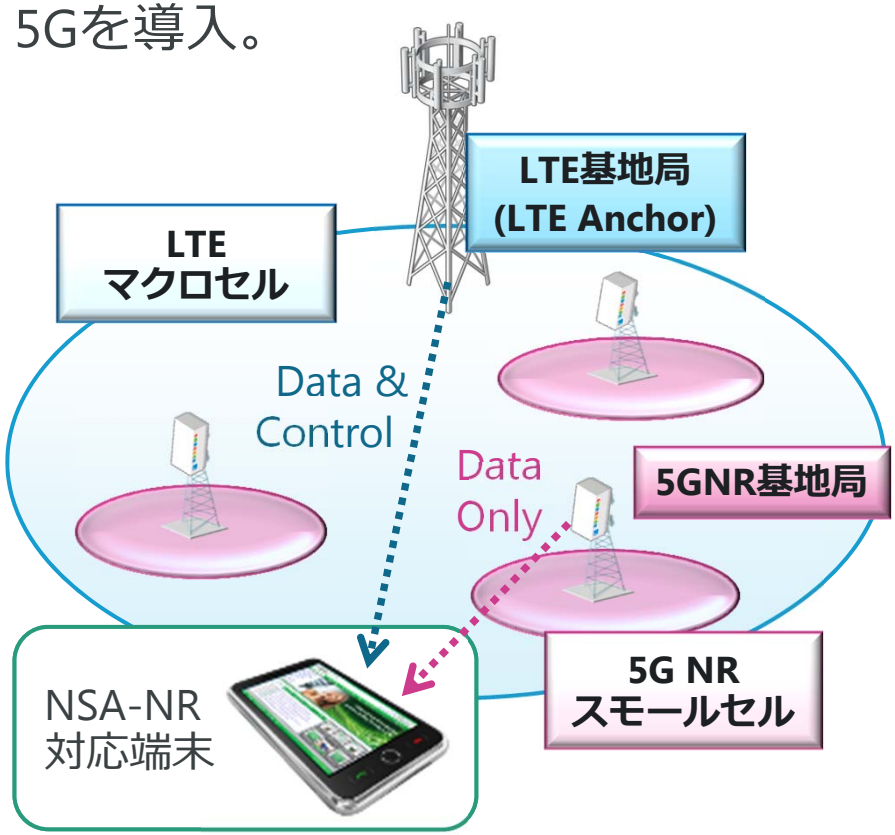
チャンバーを使ったOTA
(Over The Air) 接続で正確に
測定ができる

Copyright© ANRITSU CORPORATION

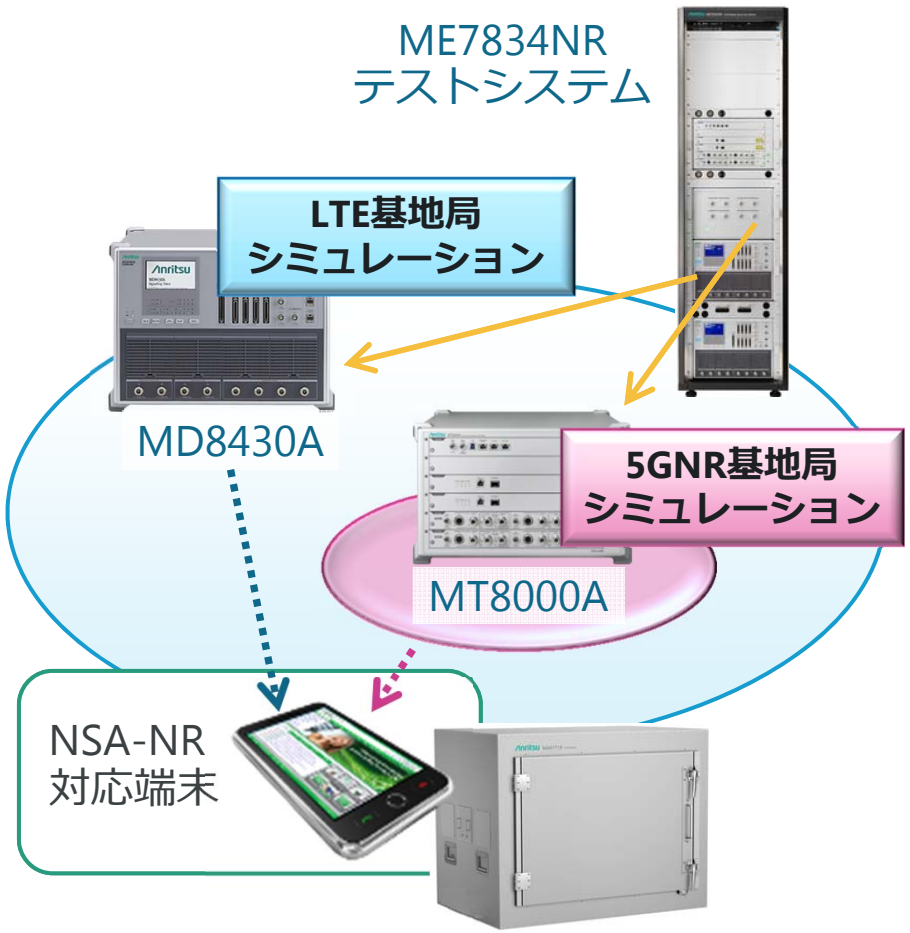
Ⅱ-5-12. 5G NSA-NR端末開発のためのテストソリューション

NSA-NR ネットワーク構成

LTEのコアネットワークを生かして
5Gを導入。



NSA-NR テスト環境



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-13. 5G基地局/端末向けソリューション

MS2850A シグナルアナライザ

5Gの基地局や端末のR&D、製造に必要なミリ波測定ソリューションを今までに無い低価格で実現したシグナルアナライザ

周波数範囲：9 kHz~32 GHz/44.5 GHz
解析帯域幅：255 MHz (標準)、510 MHz (オプション)、1GHz (オプション)

今までのLTE用のシグナルアナライザ

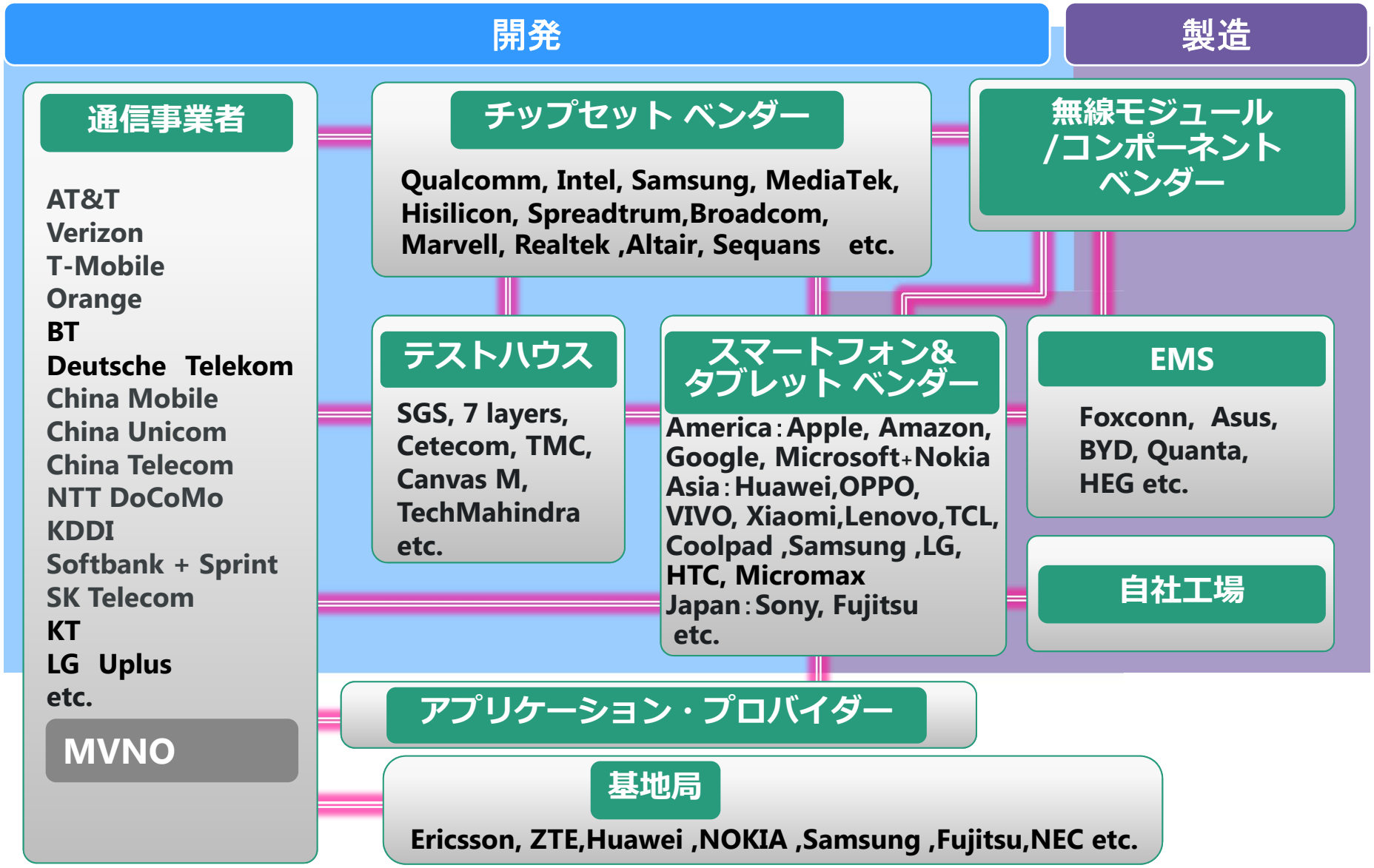
- 6GHｚ以下の周波数が主体
- 解析帯域は20MHzから数百MHz

5G用のシグナルアナライザ

- 44.5GHｚまでの周波数をカバー
- 解析帯域は1GHｚまで対応
- 商用開発、製造で導入できる低価格

Copyright© ANRITSU CORPORATION

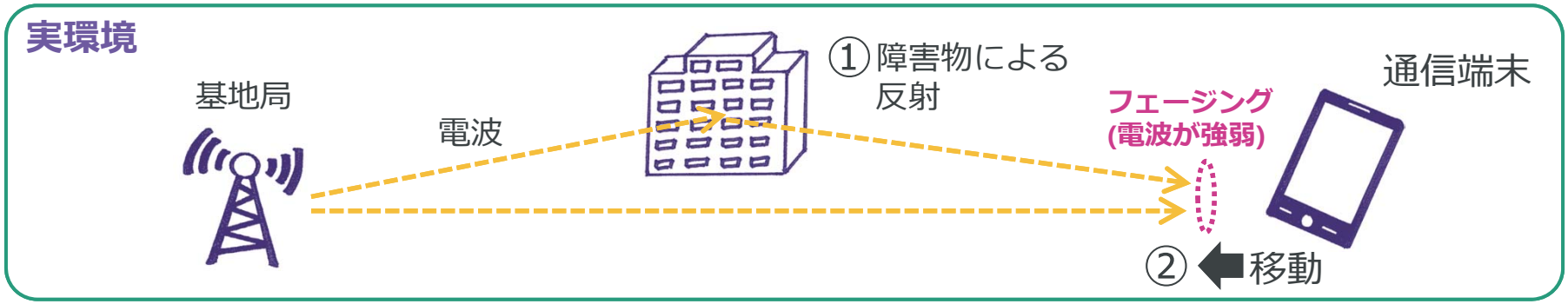
Ⅱ-5-14.　モバイル通信市場の業界構造



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-15. アジマスシステム社の買収

・会社名：　Azimuth Systems, Inc.
・本社所在地：米国　ボストン
・事業形態：チャネル・エミュレータなどの開発・販売
・主な顧客：米州、EMEA、アジアおよび日本のオペレータ、チップセットベンダー、
　　ネットワーク機器ベンダー、UEベンダーなど



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-5-16. アンリツとアジマスシステム社のコラボレーションによるソリューション

Anritsu envision : ensure

＋

Azimuth

チャネル・エミュレータ

→

OTA※向けソリューション

- 3CA/4CA　※OTA : Over The Air
- 4x4MIMO
- Cellular/WiFi 試験

＋

→

Automotive向けソリューション

- Telematicsドライブエミュレーション
- 車載モジュール受信評価
- Cellular/WiFi 試験

＋

５G用チャネル・エミュレータ

→

５G R&D向けソリューション

- ５G RFコンフォーマンス試験
- ５G プロトコルコンフォーマンス試験

短期　両社が得意とする市場へコラボレーションによる売り上げ増

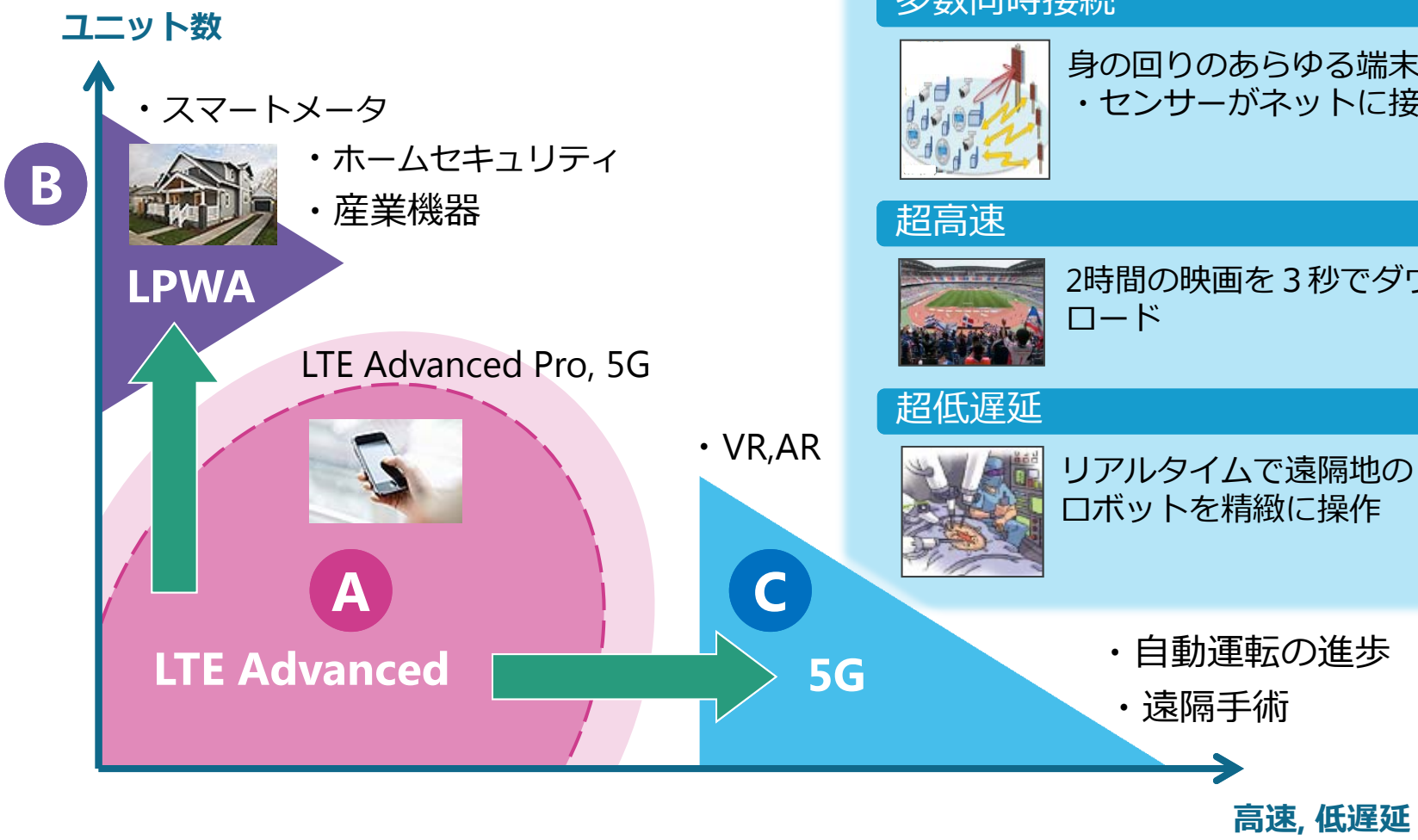
中期　①当社のプロトコル技術とアジマスシステム社のRF技術を融合したソリューションを提供（5Gの開発用測定器立ち上がり期）
②自動車市場にドライブエミュレーション等を展開

長期　５G端末用コンフォーマンス試験の提供

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-6. 産業別テストソリューション

5Gの利活用により、多様な産業分野、そして新しい市場の創造をサポートしていくことで、収益機会を拡大。



多数同時接続

身の回りのあらゆる端末
・センサーがネットに接続

超高速

2時間の映画を３秒でダウンロード

超低遅延

リアルタイムで遠隔地のロボットを精緻に操作

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-6-1. スマートフォンの製造ソリューション

A

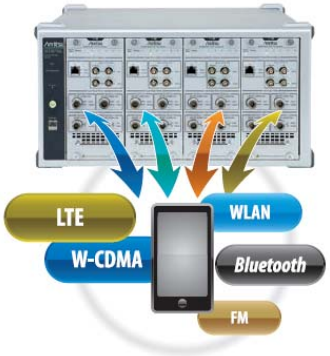
最近の動向

1. Huawei, Vivo, Oppo
   中国ベンダーの台頭と競争激化 (☞)

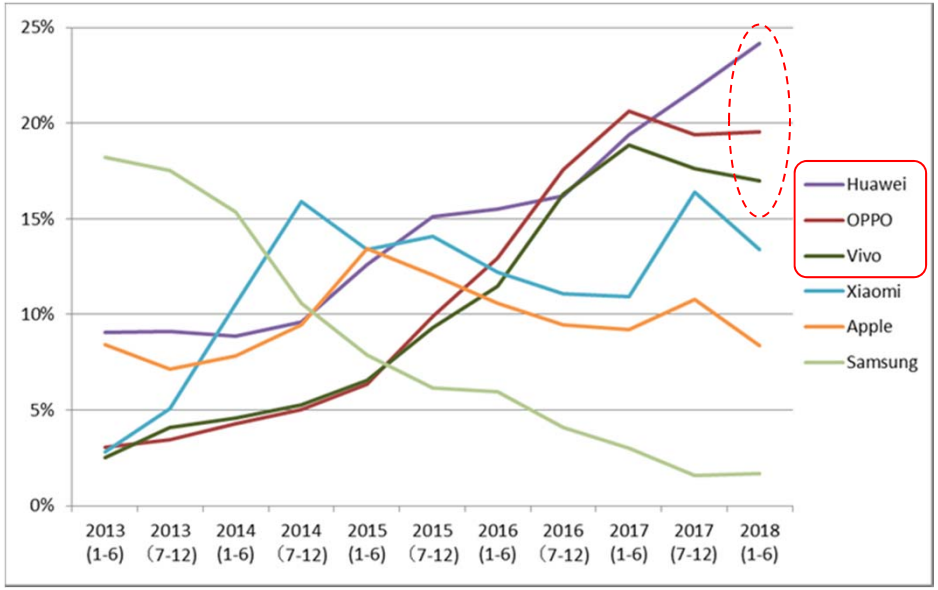
2. インド製造市場の成長

2G / 3G / LTE やコネクティビティ向けソリューリョン

MT8870A
Universal
Wireless Test Set



中国でのベンダー別スマートフォン出荷シェア *



*Source ：Gartner "Market Share: PCs, Ultramobiles and Mobile Phones, All Countries, 2Q18 Update" 24 Aug. 2018
Smartphone＝Basic Phone, Premium Phone, Utility Phone
OS＝Excluding WindowsRT and Proprietary
Graph created by Anritsu based on Gartner research

主な競合 ローデ&シュワルツ、キーサイト

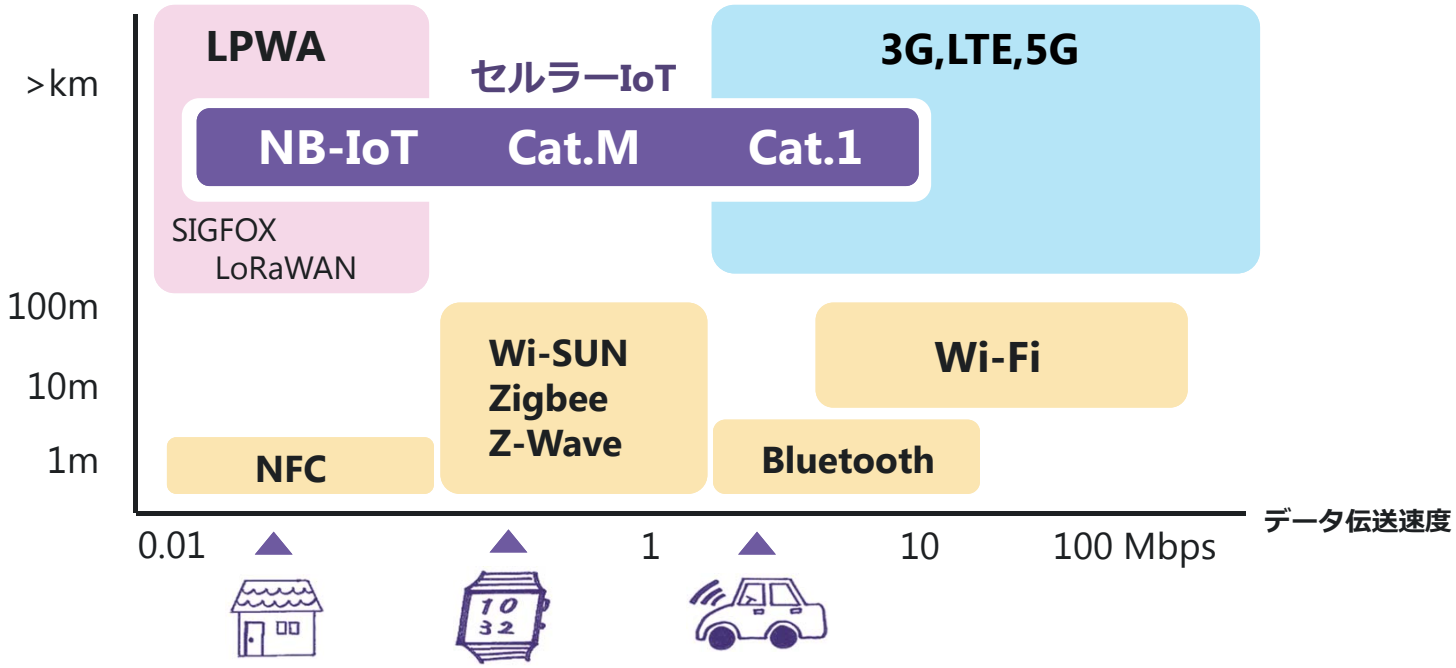
本レポートにおいてガートナーに帰属するすべての記述は、ガートナーの顧客向けに発行された配信購読サービスの一部として発行されたデータ、リサーチ・オピニオン、または見解に関する アンリツによる解釈であり、ガートナーによる 本レポートのレビューは行われておりません。ガートナーの発行物は、その発行時点における見解であり、本プレゼンテーション発行時点のものではありません。ガートナーの発行物で述べられた意見は、事実を表現したものではなく、事前の予告なしに変更されることがあります。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-6-2. IoT向けスマートデバイスの研究開発ソリューション

B -1

IoTを実現する無線方式



セルラーIoT向け研究開発用ソリューション

MT8821C
ラジオコミュニケーション アナライザ

チップセット

SiP
(System in Package)

MD8430A
シグナリングテスタ

主な競合

ローデ & シュワルツ
キーサイト

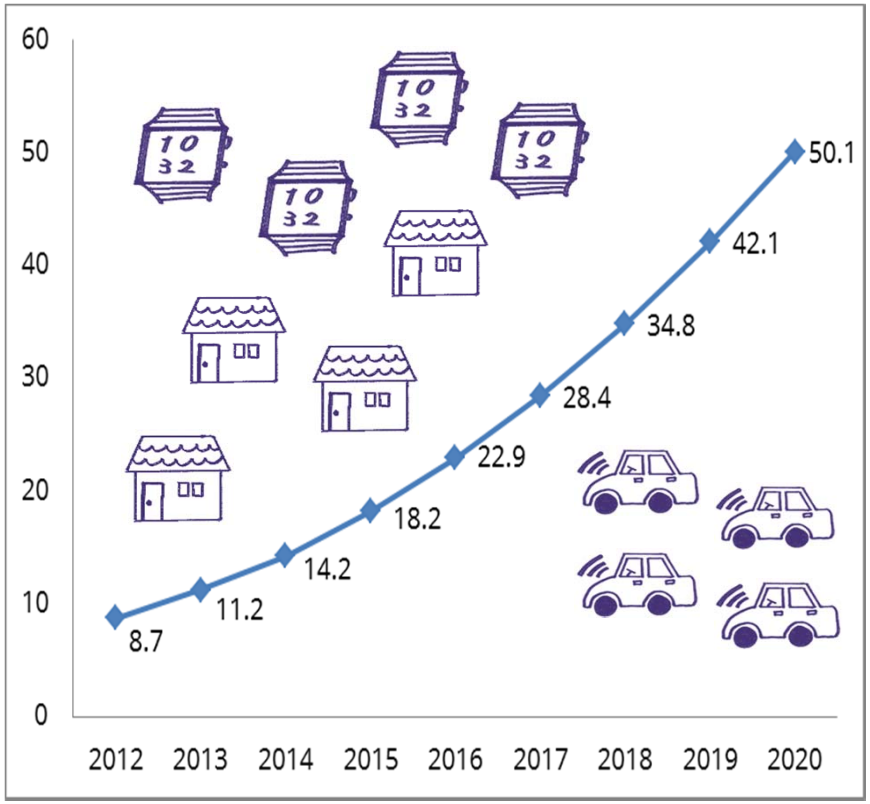
Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-6-3. IoT向けスマートデバイスの製造ソリューション

B -2

IoT向けコネクティビティ&モジュール市場の成長

[Billions] **The Number of IoT Devices**

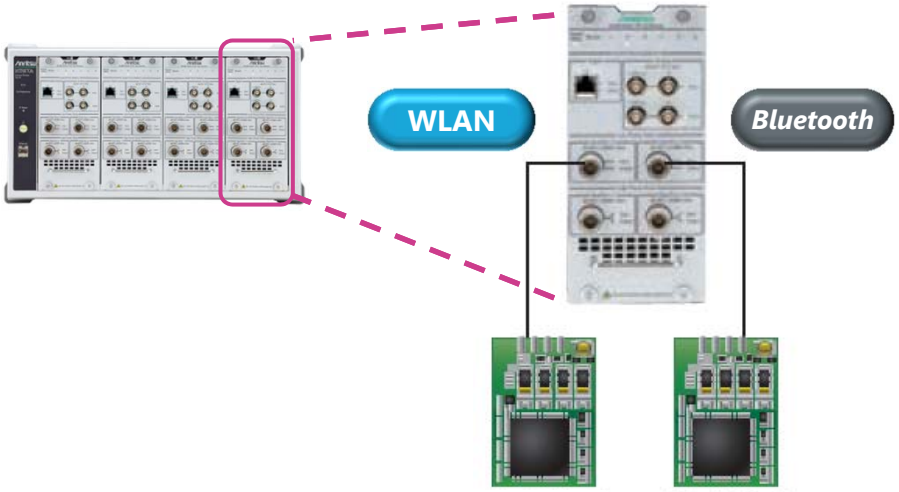


*Source ：World Economic Forum

Bluetooth / WLAN向け

MT8862C ワイヤレスコネクティビティテストセット

MT8870A ユニバーサルワイヤレステストセット



**SiP (System in Package)

主な競合 テラダイン、ナショナル・インスツルメンツ、ローデ&シュワルツ、キーサイト

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-6-4. 自動車市場における新技術の導入と
C　アンリツの取り組み

2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021

自動運転の進化

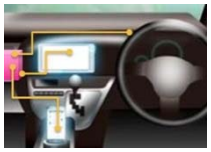
Level 1

Level 2

Level 3

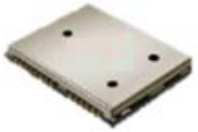
- 4G対応テレマティクスの普及
- eCall搭載義務化
- 79GHzレーダーの利用拡大
- V2X実証実験の活発化

テレマティクス / eCall ※車両緊急通報

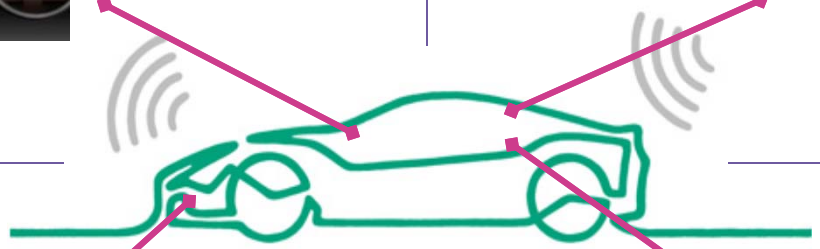


モバイルネットワーク
シミュレータ

モバイル通信 / コネクティビティ



ワイヤレス通信
RF性能試験



ミリ波信号送信機テスタ

79GHz高分解能車載レーダー

V2X通信品質評価

V2X (802.11p) ※ 車車間・路車間通信

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-6-5. 自動車市場の業界構造

安全，緊急，
快適，インフォテインメント，診断

カーベンダー

自動運転車

ADAS
(Advanced Driver Assistance System)

Telematics
(Telecommunication + Informatics)

ITS C-ITS
(Intelligent Transport Systems)

ダッシュボードベンダー

送受信モジュール
(セルラー + V2X + コネクティビティ + アンテナ 等)
レーダーモジュール

アンテナ
通信衛星受信機
チューナー

モジュールベンダー

セルラーモジュール,
コネクティビティモジュール,
V2X モジュール,
レーダー ,
アンテナ,
コネクター,
ケーブル 等

チップセットベンダー

通信用半導体

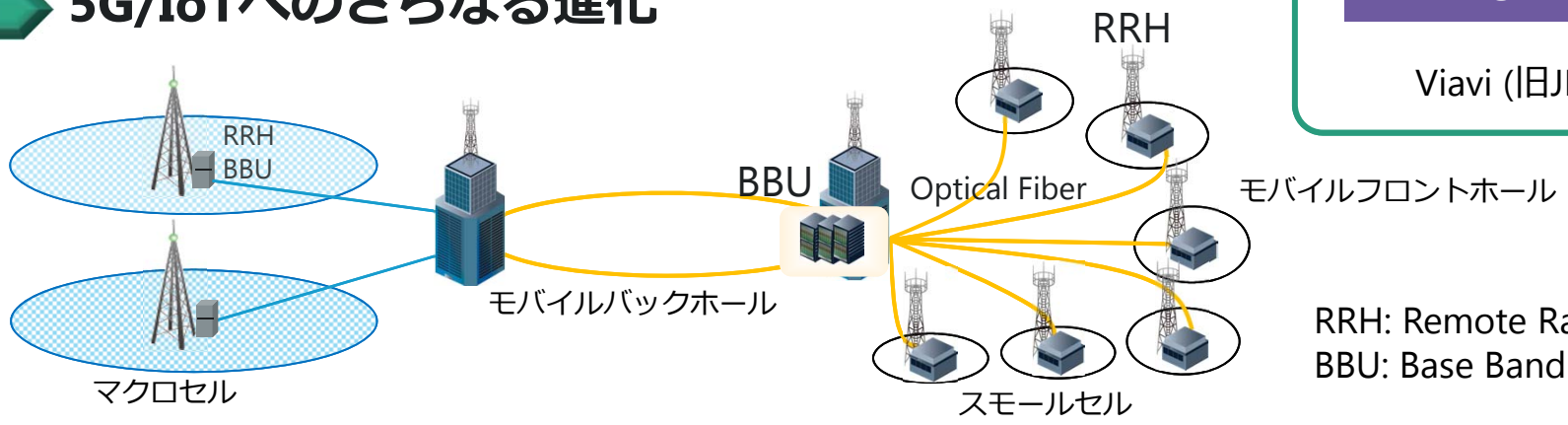
Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-7. Network Reshaping Test Solutions

5G/IoTへのさらなる進化

主な競合

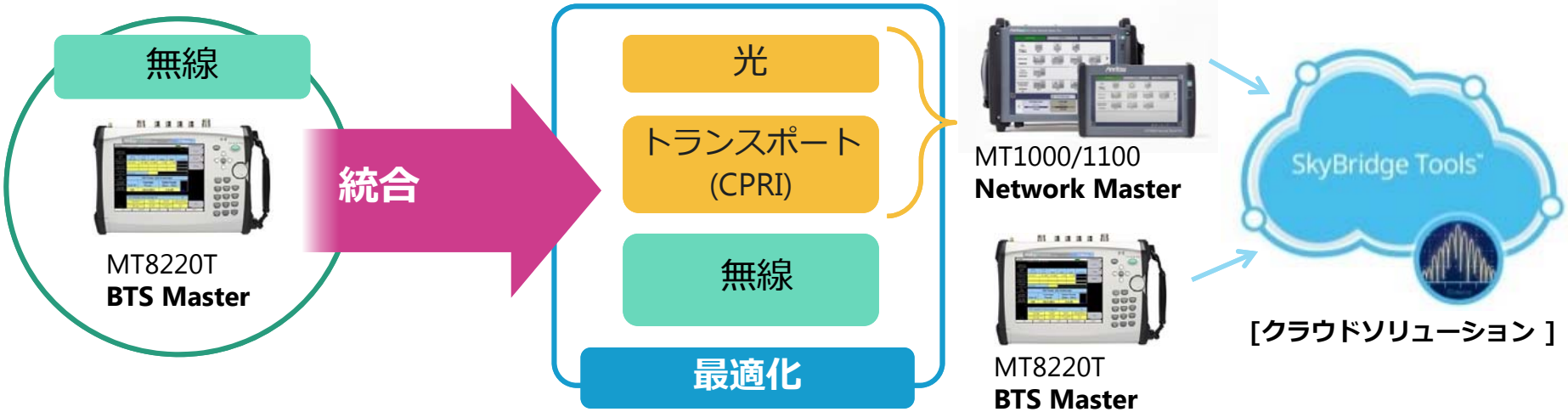
Viavi (旧JDSU)



RRH: Remote Radio Head
BBU: Base Band Unit

現行LTE ネットワーク ＋ **5G ネットワーク**

ネットワークテストソリューションの未来を変える



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅱ-7-1.クラウドサービスの拡大を支えるテストソリューション

急速に伸びるデータトラフィック

グローバルデータセンターのトラフィック増加

出展: シスコ　グローバルインデックス2015-2020

データセンター

- データセンター増設
- 高速化
- 大容量化
- 光化

DCI（データセンター相互接続）
高速通信
10G/40GbitE→100G/200/400GbitE

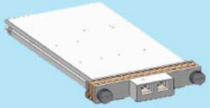
データセンター

主な競合

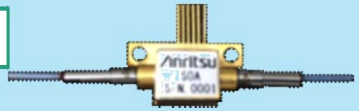
キーサイト

データセンター装置ベンダー
（ルーター、スイッチ等）

光モジュールベンダー



光デバイスベンダー



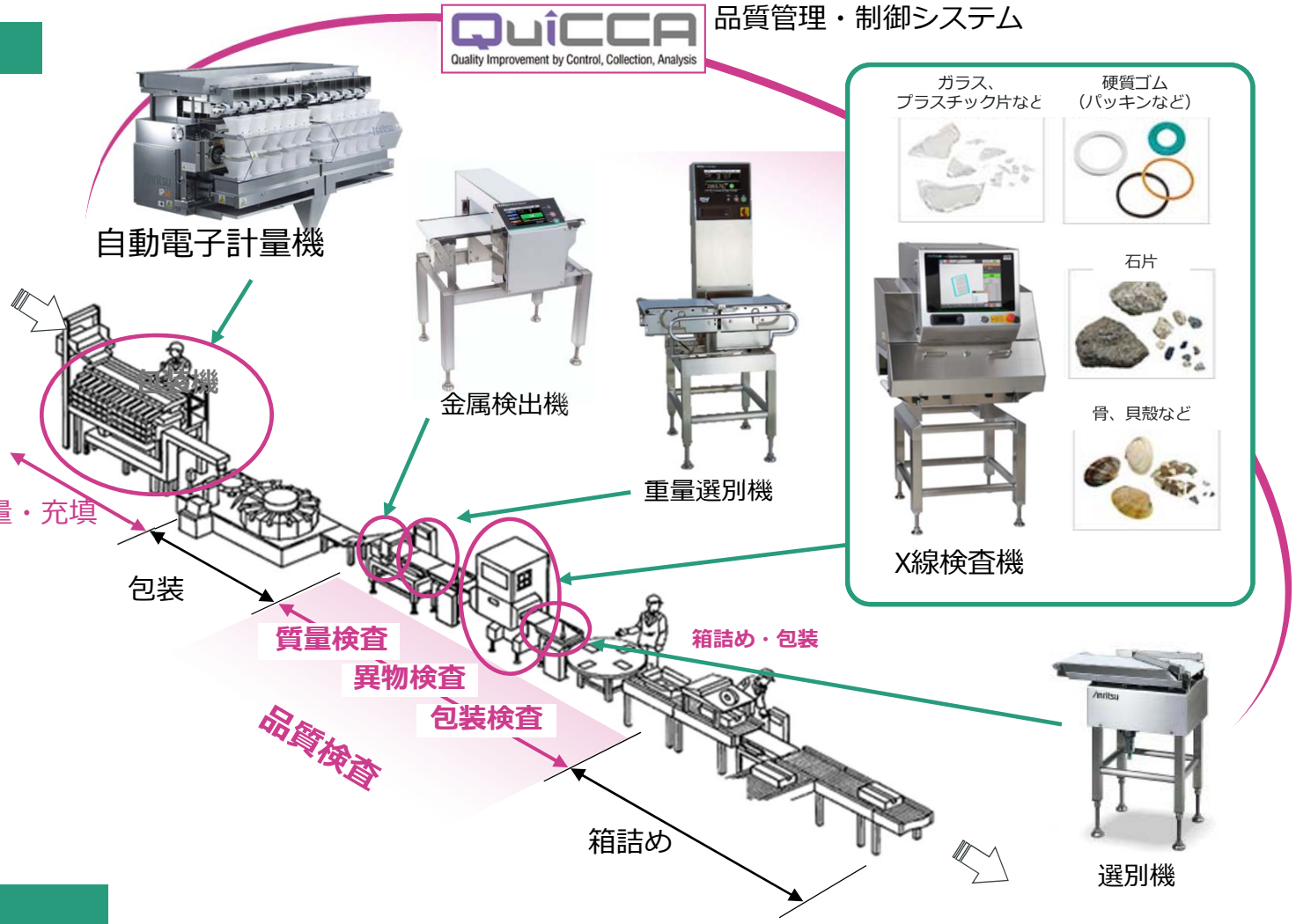
Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅲ．PQA事業

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅲ-1. PQA 事業 (Products Quality Assurance)

食品生産工程の一般例



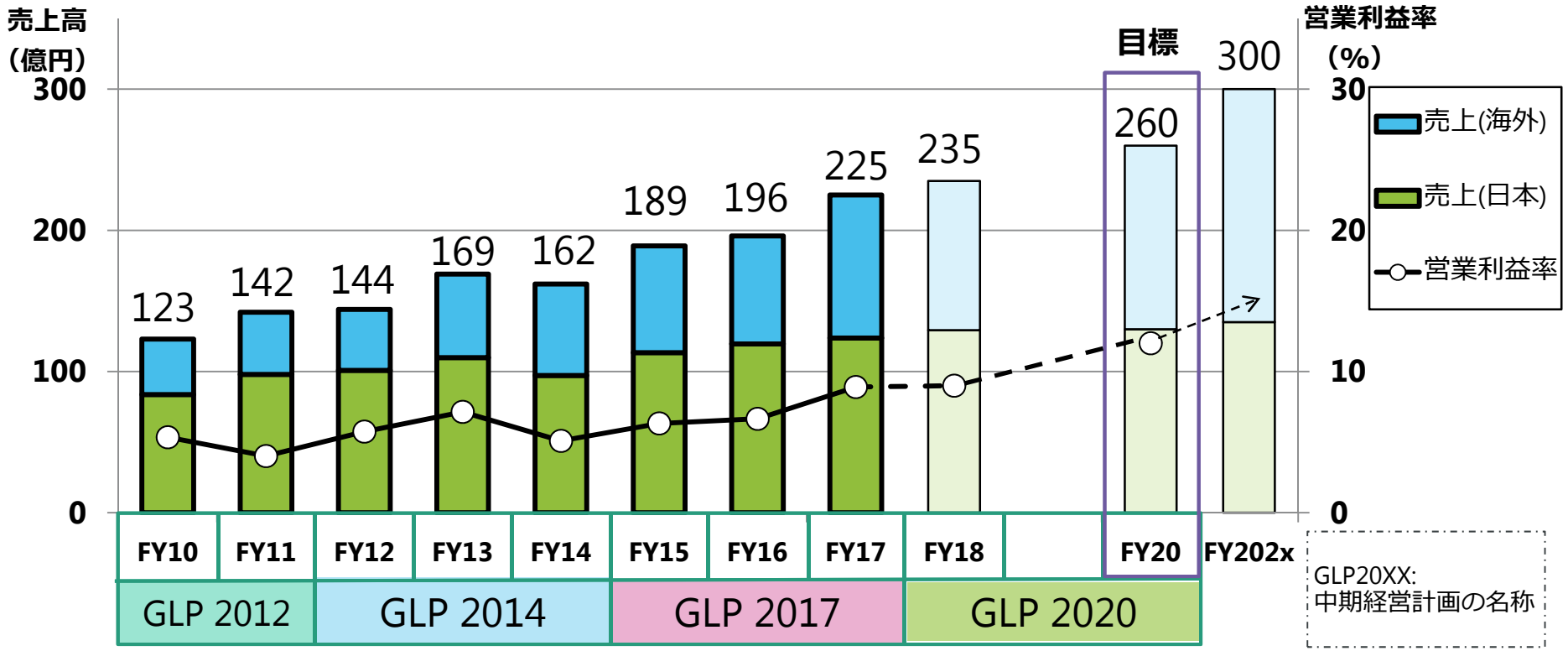
- 異物の混入
- 内容量のバラつき
- 割れ・欠け
- 包装（封止）不良
- 印字ミス・カスレ

主な顧客

モンデリーズ、ネスレ、クラフトハインツ、日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループなど

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅲ-1-1. 成長するPQA事業< PQA >

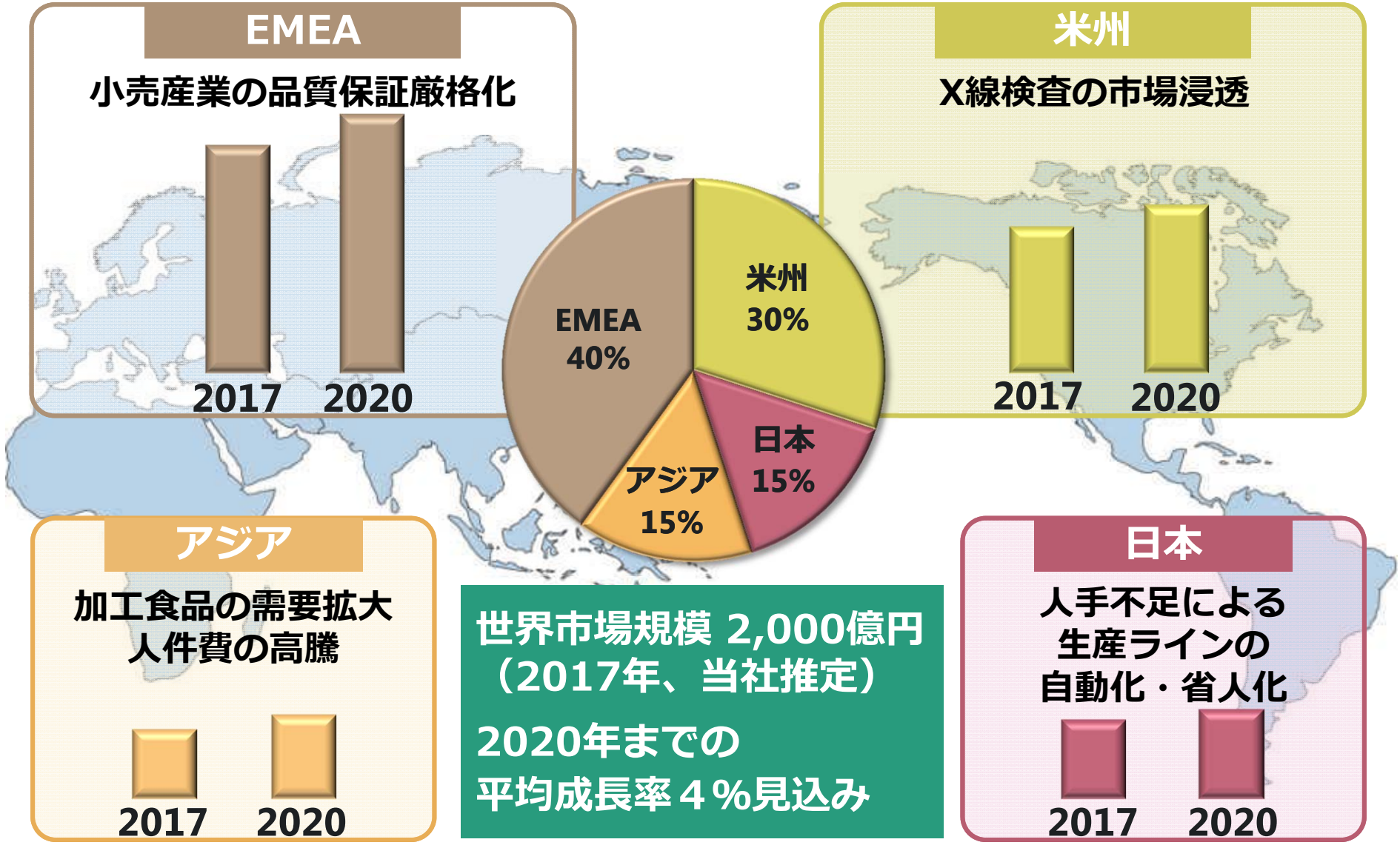


市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査器をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズに応える高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合 メトラートレド・イシダ・マレル

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅲ-1-2. PQA事業：PQA市場の現状と見通し



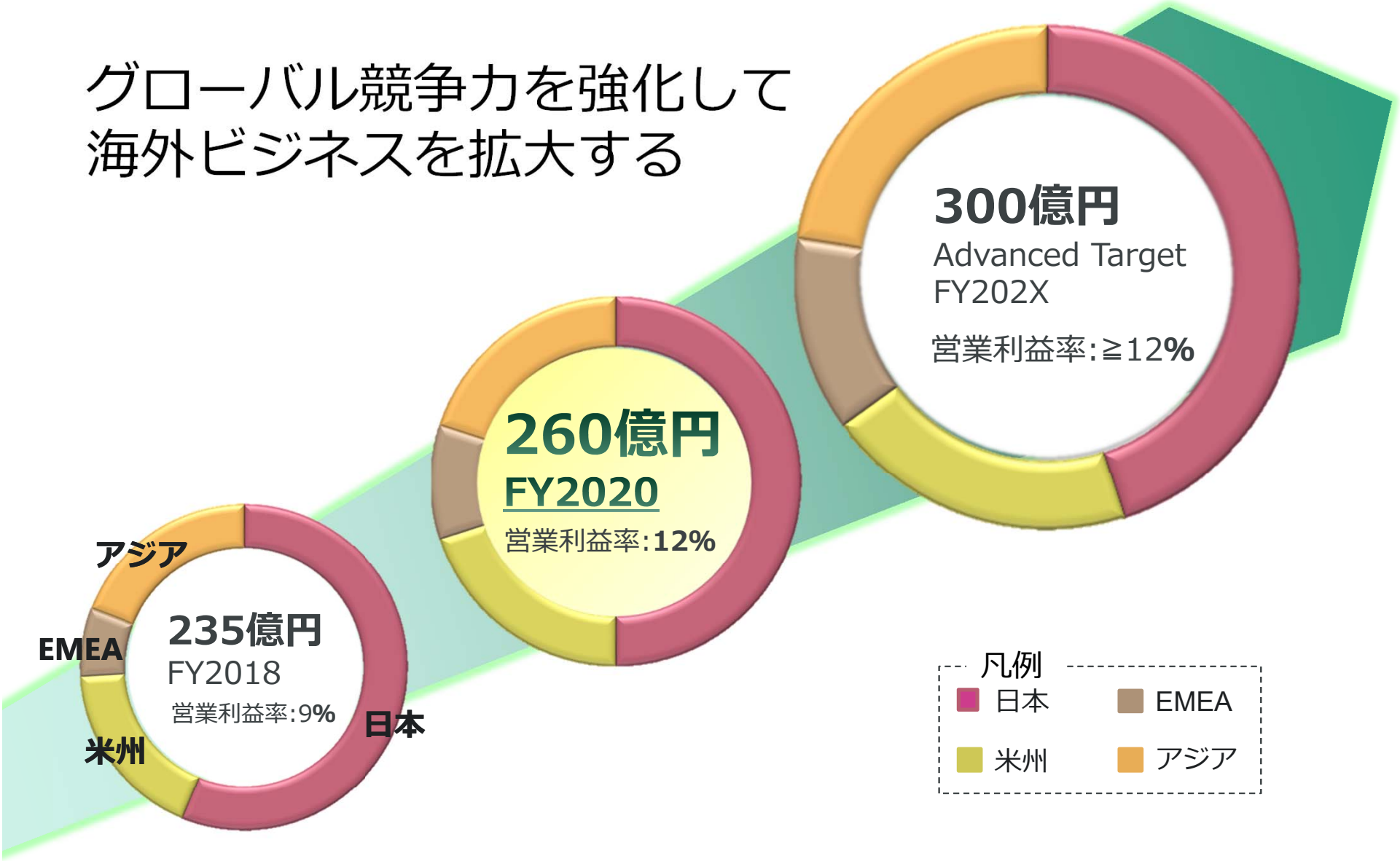
世界市場規模 2,000億円
（2017年、当社推定）

2020年までの
平均成長率４％見込み

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅲ-1-3. PQA事業：GLP2020売上高・営業利益計画

グローバル競争力を強化して
海外ビジネスを拡大する

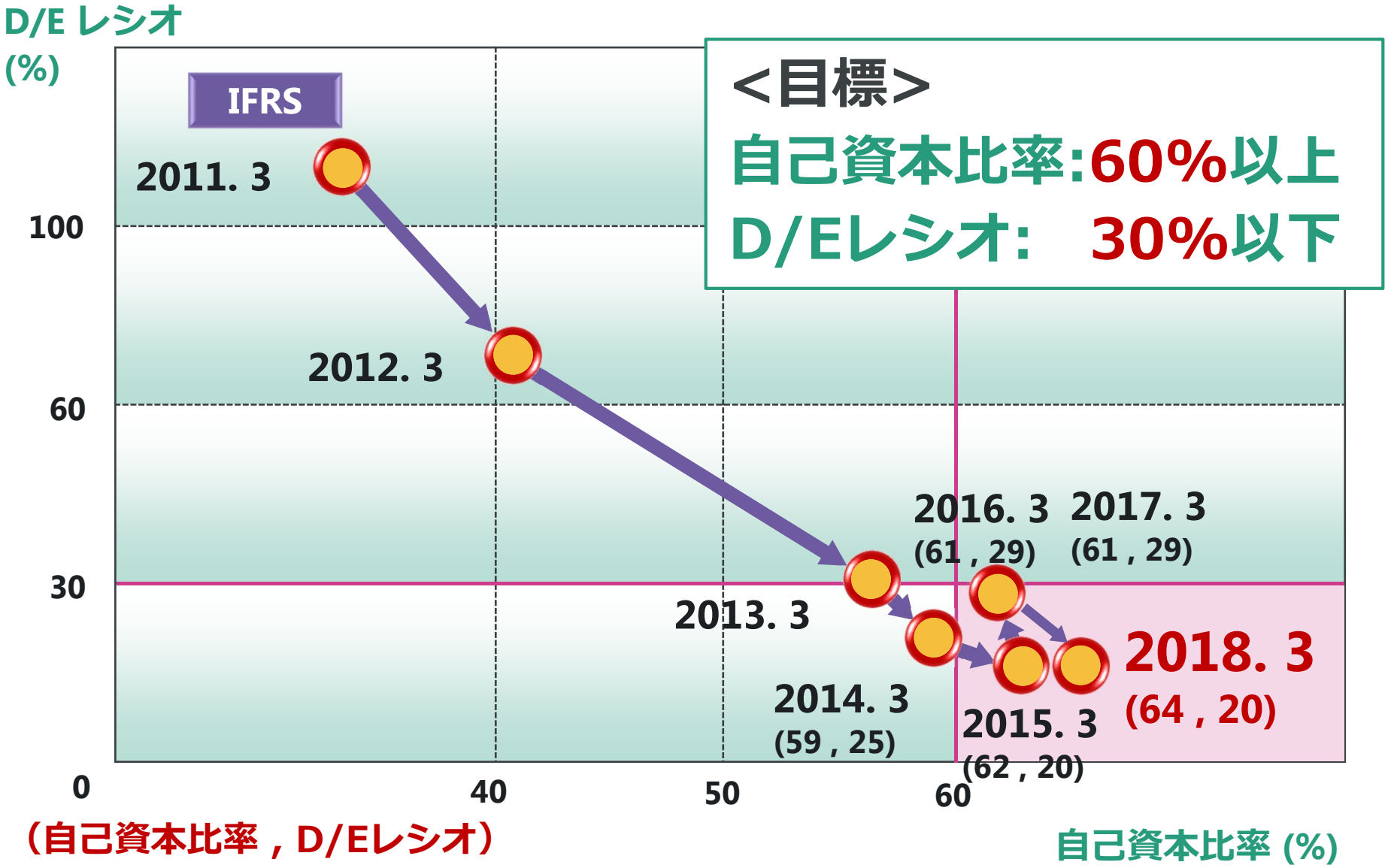


Copyright© ANRITSU CORPORATION

Blank Slide

Copyright© ANRITSU CORPORATION

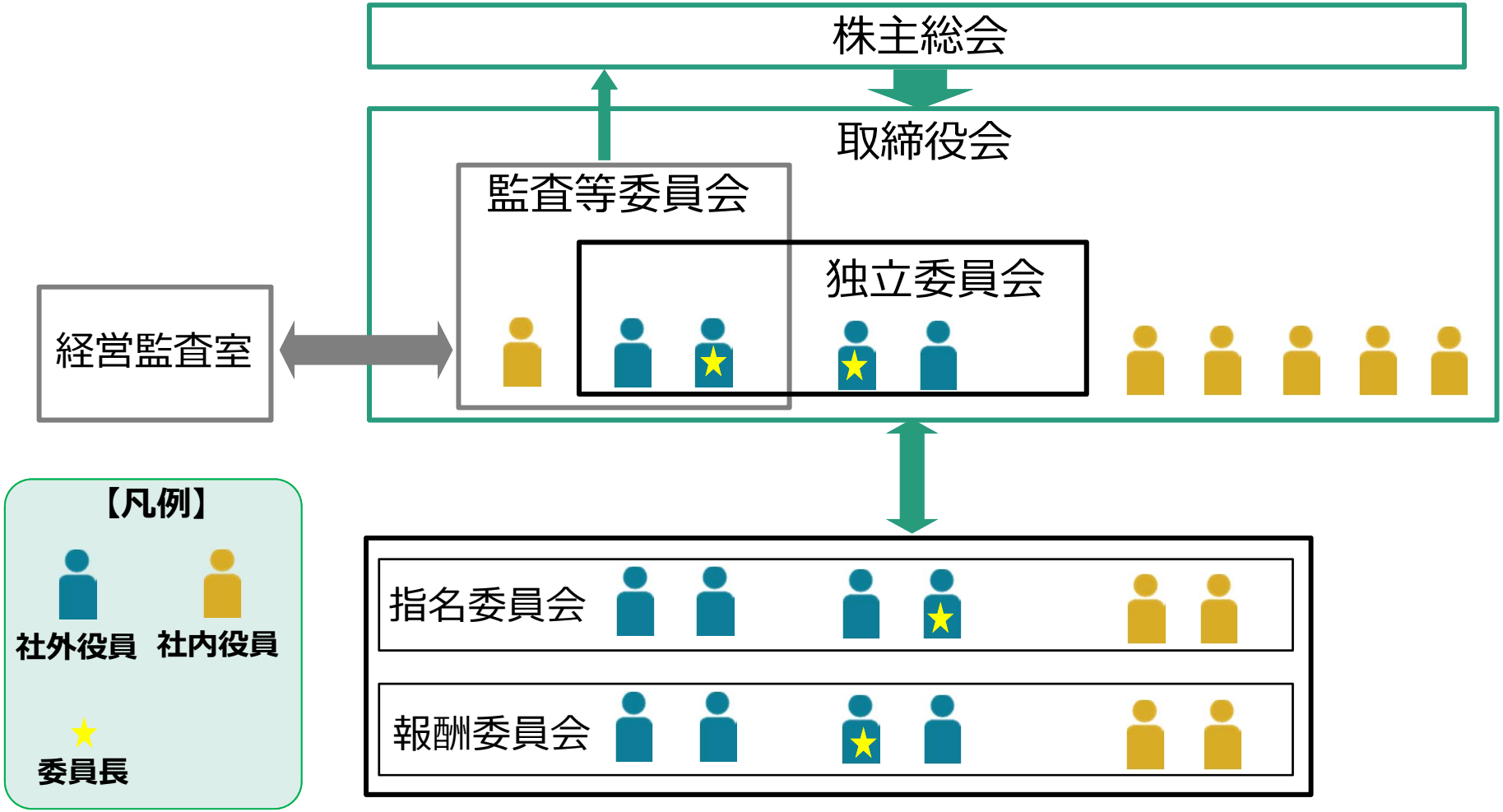
Ⅳ-1. 財務戦略



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅳ-2. コーポレートガバナンス体制

-競争力を高め、継続的に企業価値を向上させていくために-



Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅳ-3. 株主還元

利益処分に関する基本方針

連結業績（当期利益）に応じた利益処分を行うことを基本方針とする

1. 連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率（DOE）を上げることを基本とする

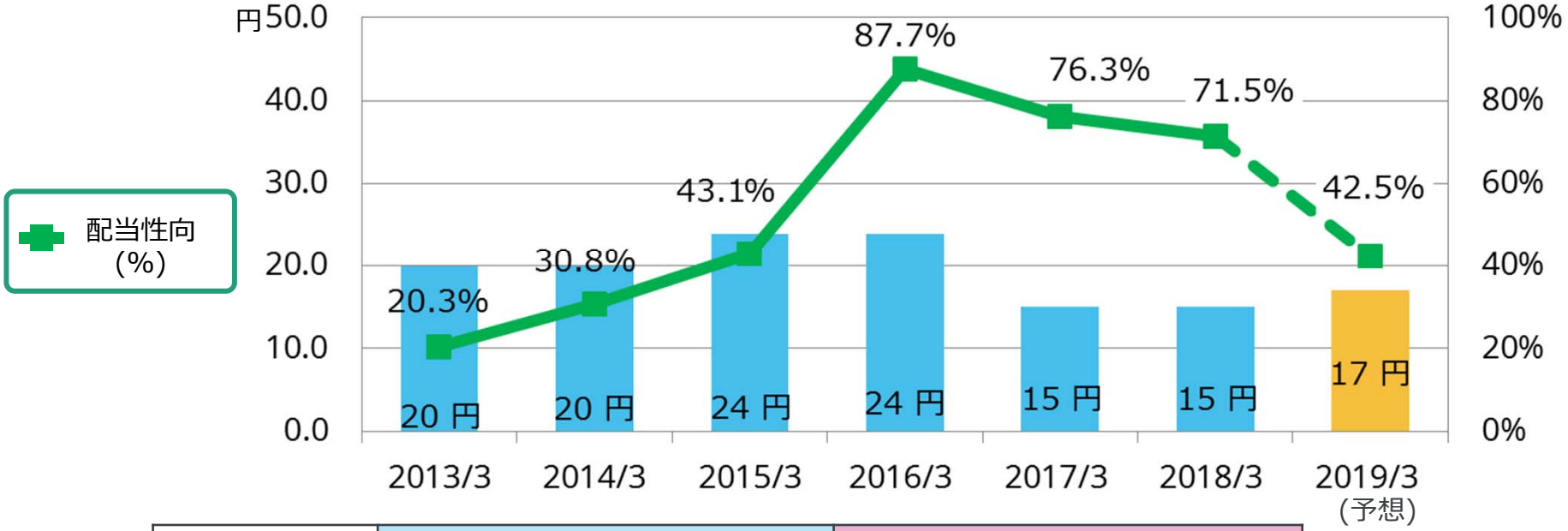
2. 連結配当性向30%以上を目標とする

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅳ-3-1. 配当予想について

年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE
2019年3月期（予想）	**17円**	**50億円**	**42.5%**	**3.0%**
2018年3月期	15円	29億円	71.5%	2.7%



3年間の総還元性向	GLP2014 (FY2012～FY2014)	GLP2017 (FY2015～FY2017)
	45.4% (自己株式取得50億円含む)	**79.4%**

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅳ-4. 社会的使命を果たすために

Anritsu way
envision : ensure

社会軸
SDGs

事業軸

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅳ-4-1. アンリツのサステナビリティ目標 (SDGs)

事業を通じて社会課題を解決していく

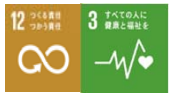
安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の構造とイノベーションの促進に貢献する

計測事業

PQA事業

情報通信

デバイス



ESG（環境・社会・ガバナンス）重要課題　と両立させていく

グローバル経済社会との調和

多様な人財とともに、個々人が成長し働きがいのある職場づくりに貢献する

人財育成、労働安全衛生、人権と多様性の尊重、・人権を配慮したSCM

S

地球環境保護の推進

持続可能な消費と生産の企業活動で持続可能な社会づくりに貢献する

CO_2排出量・水使用量の削減、高品質で環境に配慮した製品の開発・製造、環境負荷を低減するSCM

E

コミュニケーションの推進による共有価値の創造

すべてのステークホルダーとともに協働して共有価値の創造に貢献する

情報提供とコミュニケーション、コンプライアンスの定着、リスクマネジメントの推進

G

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ⅴ. 2019年3月期第2四半期　連結決算概要

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ｖ- 1. 連結決算概要　- 業績サマリー -

前年同期比増収、増益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)	前第２四半期連結累計期間(4-9月)実績	当第２四半期連結累計期間(4-9月)実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
受注高	427	479	52	12%
売上高	407	443	36	9%
営業利益	6	35	29	507%
税引前利益	5	37	32	669%
当期利益	2	31	29	-
当期包括利益	12	44	32	264%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Copyright© ANRITSU CORPORATION

V- 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

T&M：5G初期開発投資で増収、増益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		前第２四半期連結累計期間(4-9月)実績	当第２四半期連結累計期間(4-9月)実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
T&M	売上高	264	292	28	11%
	営業利益	△4	25	29	-
	（調整後営業利益）	(△2)*	(25)	27	-
PQA	売上高	107	114	7	7%
	営業利益	9	9	0	△7%
その他	売上高	36	37	1	4%
	営業利益	4	4	0	18%
調整額	営業利益	△3	△3	0	-
合計	売上高	407	443	36	9%
	営業利益	6	35	29	507%

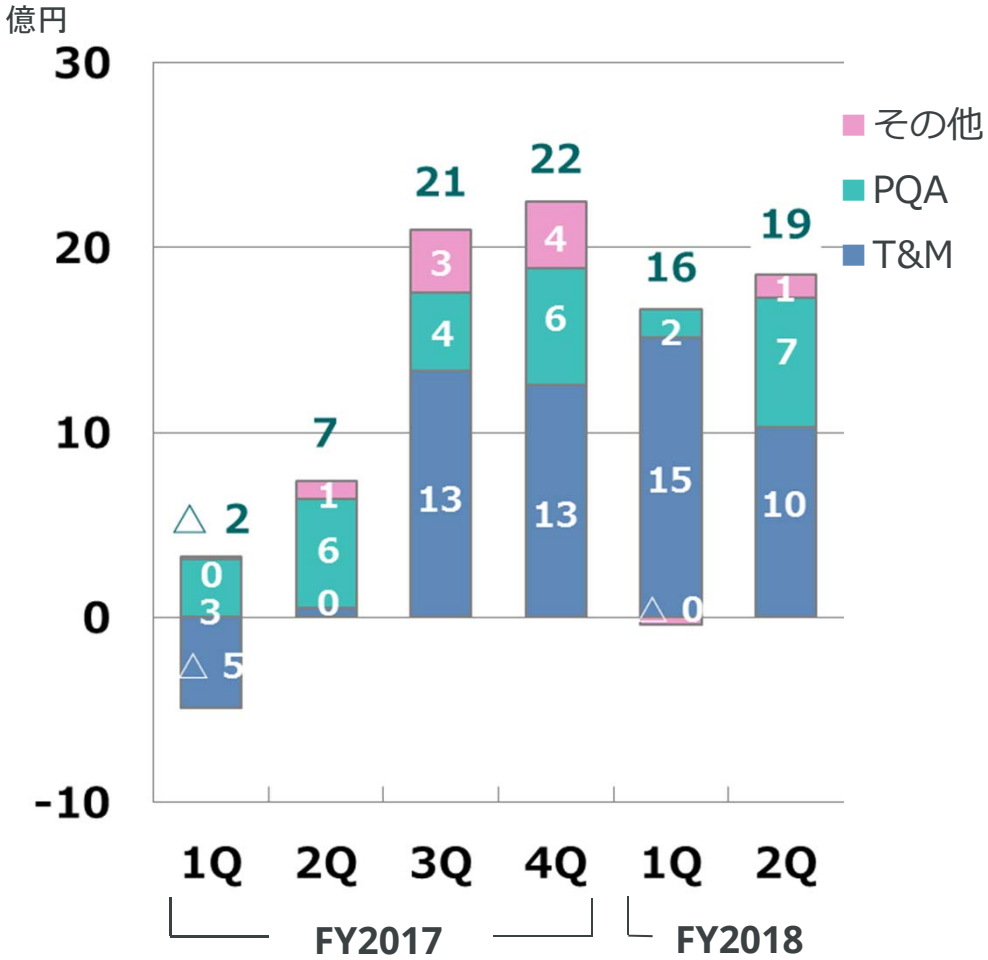
（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入
（注2）調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。
（注3）第１四半期連結会計期間から本社管理費等の各事業セグメントへの配分方法を変更しており、前連結会計年度の数値は組替再表示しています。
*T&M調整後営業利益は、米国でのリストラ費用2億円を控除した数値です。
T&M: Test & Measurement　　PQA : Products Quality Assurance

Copyright© ANRITSU CORPORATION

V- 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

2Q(7-9月)営業利益率：連結8%, T&M7%, PQA11%

売上高



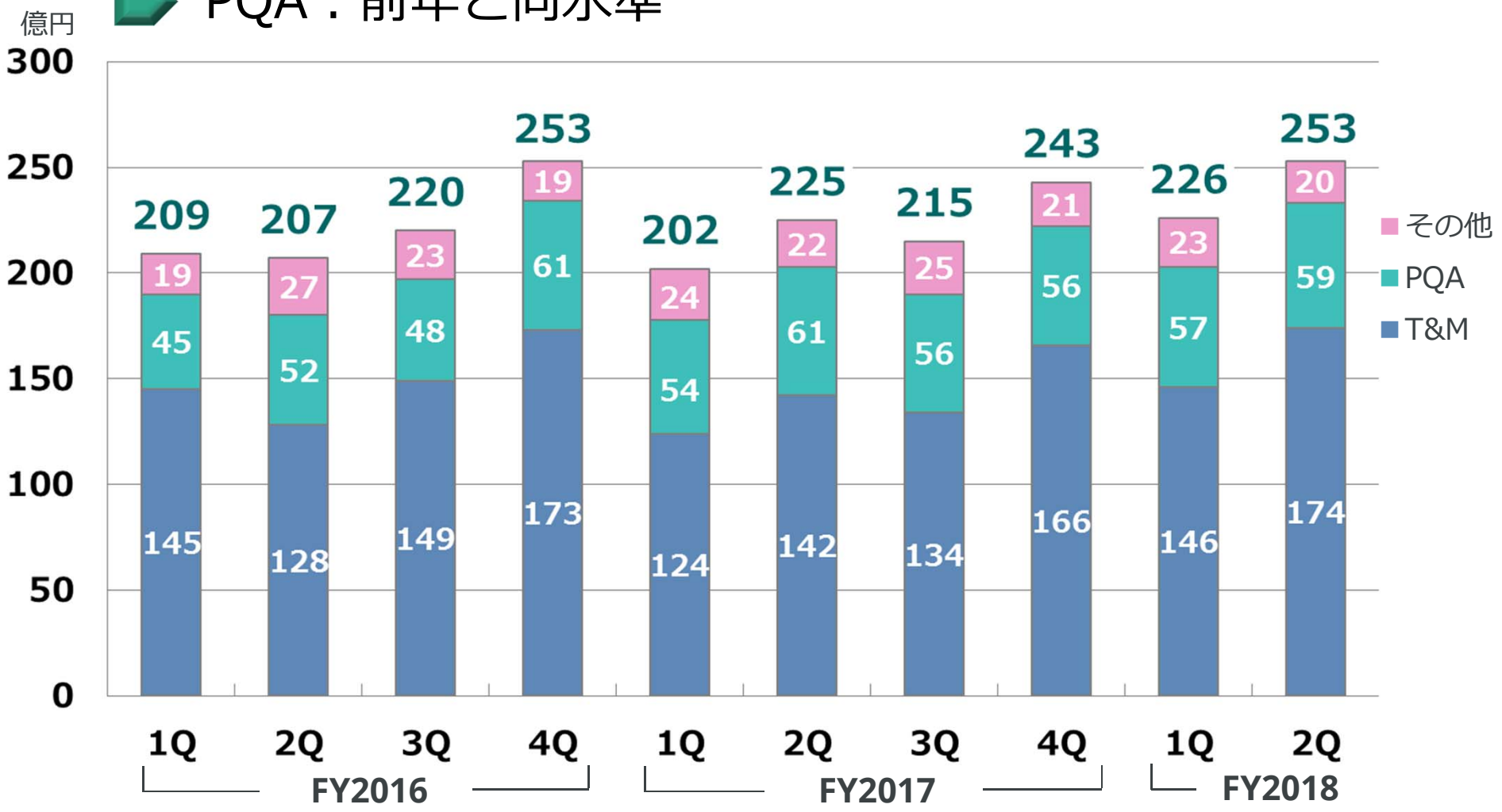
営業利益

（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入
（注2）営業利益の「その他」には「調整額」が含まれています。

Copyright© ANRITSU CORPORATION

V - 4. 受注高推移

- T&M：前年同期比23%増
- PQA：前年と同水準

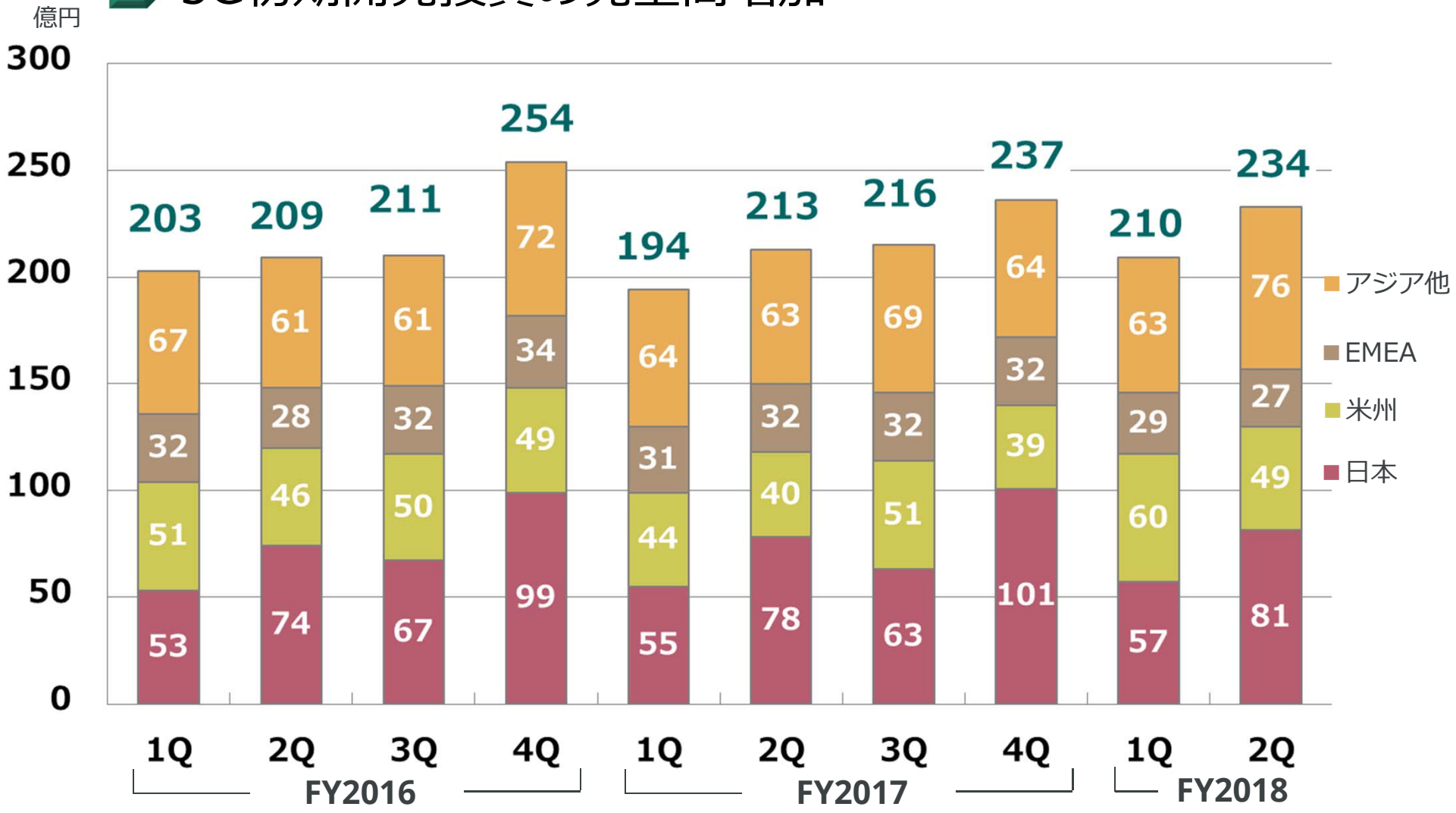


（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Ｖ- 5. 地域別売上高推移

5G初期開発投資の売上高増加

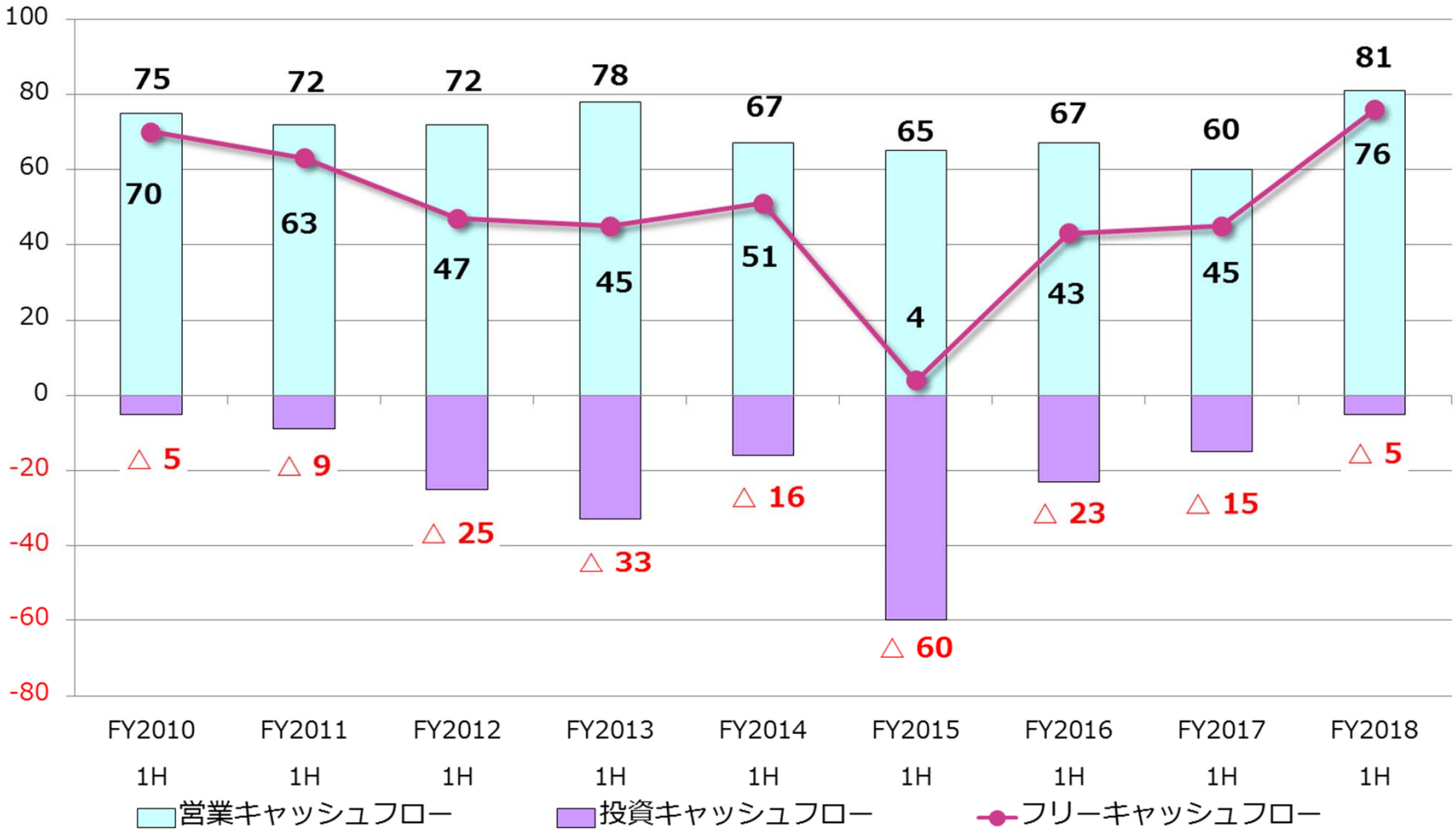


（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Copyright© ANRITSU CORPORATION

V- 6. キャッシュフロー (1/2)

(単位：億円)



（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入

（注2） FY2010は日本基準、FY2011以降は国際会計基準（IFRS）

Copyright© ANRITSU CORPORATION

V- 6. キャッシュフロー　(2/2)

営業CFマージン率18.3%

FY2018 2Q（累計）
①営業CF：　81億円
②投資CF：　△5億円
③財務CF：　1億円

フリーキャッシュフロー
（①＋②）：　76億円

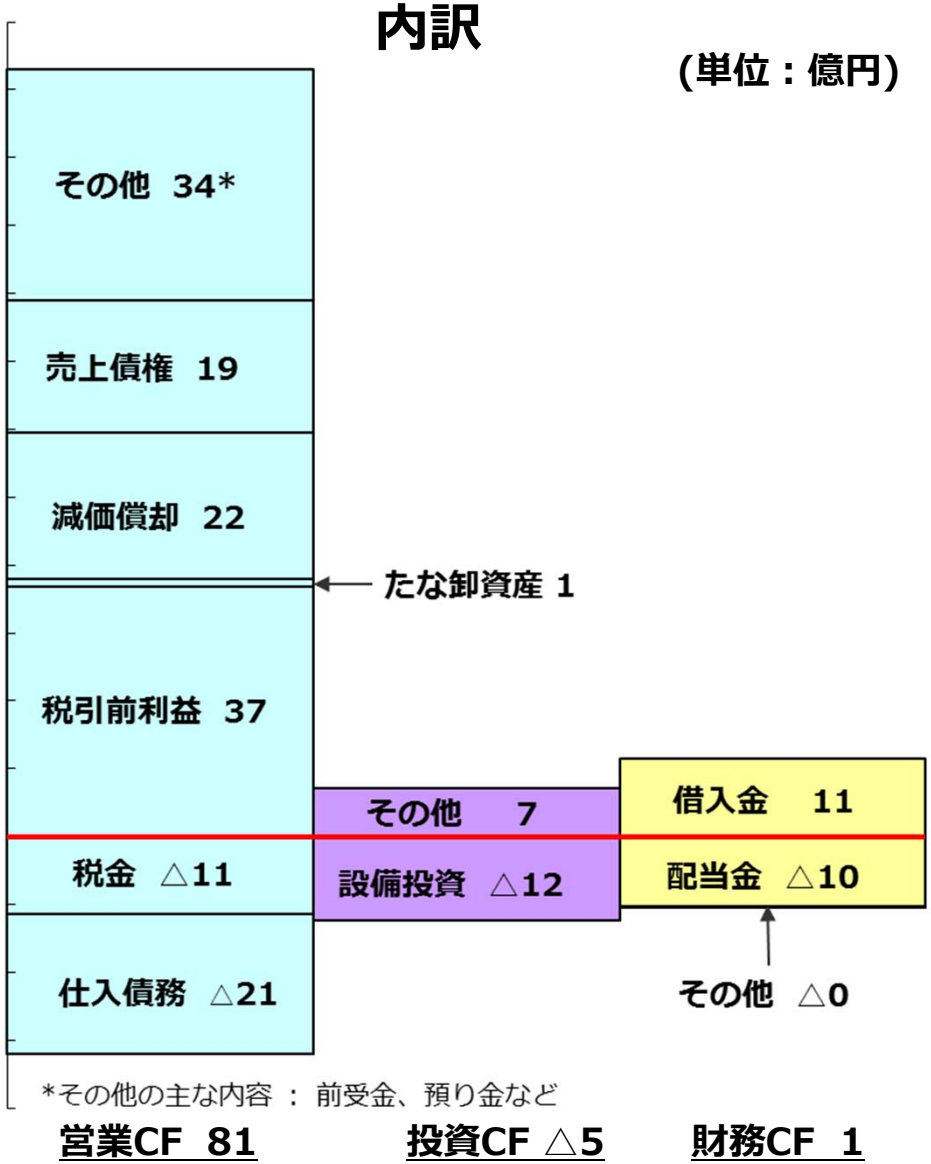
現金同等物期末残高
436億円

有利子負債高
171億円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

内訳

(単位：億円)



Copyright© ANRITSU CORPORATION

V-7. 2019年3月期　通期業績予想（連結）

T&M事業の利益予想を上方修正

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		2018/3期 前期実績	2019/3期 通期予想 4/26発表	2019/3期 通期予想 今回	2019/3期 前期比 増減額	2019/3期 前期比 増減率(%)
売上高		860	920	920	60	7%
営業利益		49	66	70	21	43%
税引前利益		46	66	70	24	52%
当期利益		29	50	55	26	90%
T&M	売上高	544	600	600	56	10%
	営業利益	21	35	50	29	133%
PQA	売上高	225	235	235	10	4%
	営業利益	20	20	20	0	2%
その他	売上高	90	85	85	△ 5	△5%
	営業利益	15	11	7	△ 8	△52%
調整額	営業利益	△ 7		△ 7	0	-

（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入

（注2）4/26発表予想の「その他」には、セグメント情報における「その他」と「調整額」を合わせて表示しております。

（参考）FY17 為替レート　：１米ドル111円、1ユーロ=130円

FY18 期初想定為替レート　：１米ドル105円、1ユーロ=125円

FY18 下期想定為替レート　：１米ドル105円、1ユーロ=125円

Copyright© ANRITSU CORPORATION

Anritsu

envision : ensure